

躍動

創立50周年
記念特別号

令和6年
2月8日発行
企画広報委員会編集

TOHOKU GAKUIN
UNIVERSITY



SPORTS OB FEDERATION

TOHOKU GAKUIN UNIV.





会長挨拶

会長 大友 富雄

この度、TGスポーツOB連合会（スポレン）の創立50周年にあたりご挨拶を申し上げます。

この組織は1972年にTG春秋会として発足し、1994年にTGスポーツOB連合会と改称され現在に至っております。初代大石栄一様より、岡大門様、江馬成夫様、本間良一様、仲嶋一雄様、高橋富士男様が歴任され私で7代目となりました。

2022年より会長職を高橋富士男前会長からお引き受けしましたが、まさに新型コロナウイルスが猛威を振るっていた状況で、本学でも殆ど人的な交流が制限されてしまいました。そのような中、スポーツOB連合会も半世紀を迎えることになり、この節目の時に私が会長職を仰せつかっている事に大きな責任を感じる次第です。

近年、本学の戦績は半世紀前とは比べられないほど衰退しているのが現実です。部員数が激減している本学に対し、他大学における運動部への投資環境、推薦入学条件の充実など、厳しい戦いを強いられており大変心苦しい状況となっています。

しかしながら昨年4月に土樋キャンパスの近傍に五橋キャンパスが完成し、交通の利便性も格段に良くなったことから1年生から4年生まで合同で練習ができる機会も増え、非常に活気が満ちてまいりました。また新型コロナウイルスが第5類に分類されたことに伴って部員も活動しやすくなり、これからの入部希望者の増加や各部の一層の活躍が期待されます。

尚、現在スポレンは一般社団法人化に向け（一社）青山学院大学体育会OBOG連合会様のアドバイスをいただきながら研究チームを立ち上げております。現在、体育会の卒業生はおおよそ20,000人を超える大所帯となっております。

OB・OGの皆様に尚一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。





創立50周年 祝辞

学長 大西 晴樹

TGスポーツOB連合会創立50周年、心よりお祝い申し上げます。私は50年前には大学3年生でしたので、全国に広がった大学紛争の終焉とほぼ同時にOB連合会が発足したとのこと、当時の時代状況を知る者としては、感慨深いものがあります。

さて、東北学院大学は今年度より、五橋キャンパスを開学させ、土樋キャンパスと併せて「都心型ワンキャンパス」を実現しました。また時代の要請・地域の課題解決のために教養学部を発展的に解消し、地域総合学部、情報学部、人間科学部、国際学部の4学部を開設しました。とりわけ、人間科学部心理行動科学科では、中学高校の保健体育の教員免許の取得が可能となり、学校や地域のスポーツ指導者の養成ができるようになりました。

体育会のサポート体制についても改革を断行しました。これまで特定の学生を対象としていた特別奨学金制度を廃止し、大学が決めた特別強化部については専任の指導者を招聘し、学生の指導に当たってもらっています。体育会の活動は、必ずしも大学の正課ではありませんが、「キリスト教による人格教育」を建学の精神とする本学にとって重要な教育活動であり、よき指導者を招聘することによって、人間的感化や技量の向上が生まれ、それがチーム力の向上につながるのを期待してのことです。今年度より、本学の卒業生で、学生時代、そして社会人時代をプロ選手、あるいは日本代表として活躍した星孝典氏と相澤優子氏にそれぞれ硬式野球部監督、女子バスケットボール部ヘッドコーチに就任してもらいました。

またマスコミ等の報道でご承知の通り、J2の地元サッカー球団ベガルタ仙台と学校法人東北学院が包括連携協定を結び、ベガルタ球団も泉の体育施設を練習場として利用することになりました。もちろん、学生部、体育会との事前意見聴取をして本学の練習に差し支えない限りにおいてです。具体的には、ラグビー場とサッカー場を天然芝サッカー場と人工芝の多目的グラウンドへと変え、そしてコミュニティセンターの半分をベガルタのクラブ・ハウスとして使用するというものであります。今後、泉グラウンドには野球場を含め、照明や人工芝を、体育館には冷房を整備する予定です。プロスポーツチームにも大学をはじめとする法人設置校への指導や協力を仰ぎながら、大学体育会の強化をはかっていく所存です。

創立50周年を迎えたTGスポーツOB連合会の本学に対する常日頃のご理解、ご協力に感謝し、祝辞とさせていただきます。



祝辞

東北学院大学 学生部長 坂本 譲

2023年4月より学生部長を拝命しております坂本です。私の本学体育会との関わりとしましては、2017年度より体育会軟式野球部部長を務めております。どうぞよろしくお願ひいたします。

まずはTGスポーツOB連合会（スポレン）創立50周年おめでとうございます。OB連合会のあゆみを拝見いたしますと、昭和46年の全国的な大学紛争の折に「全国的な大学紛争の波の中で、本大学にも波及し、学内が非常事態宣言のもと、教職員の支援のため、母校を思う同窓生有志が学内警備体制を組織し、献身した。」とあり、その体育会OB有志の方々による「TG春秋会」設立、そして多くの体育会OB会と協力し「TGスポーツOB連合会」へと改称、そして今日に至る約半世紀の長きにわたり本学の学生や関係者OB等、特に体育会へのご支援・ご助力を賜りまして誠に有り難うございます。またOB連合会には、指導者講習会やスポーツ講演会の開催、さらには顕著な成績を残した個人・団体に対し勲功章を授与いただき、その数は現在までに532号に至っているということ、これまた歴史と重みを感じる次第です。この場をかりて感謝申し上げます。

さて、世の中では、長らく全世界を苦しめておりましたコロナ禍による様々な活動制限の状況から脱し、明るい兆しも見え始めております。本学でも、今年度は泉・多賀城キャンパスにありました学部学科を五橋に新たに開設しました新キャンパスに移転集約し、また同時に学部改組による新学部新学科も同時にスタートさせ、それにより本学の全学生が土樋五橋の両キャンパスに集い学び活動するという学院大の新たな試み・新たな形がスタートいたしました。さらに4月の入学式・新入生オリエンテーションに始まり、青学・北海定期戦の再開、大学祭やパレード復活等々、また普段体育会の活動報告を受けている我々学生部としてもその増え方に、まだ完全ではありませんけれどもコロナ禍以前の大学の状況、また体育会の活動状態に戻りつつある事を体感できつつあります。

体育会関係の新たな話題として、昨年度より本学OBの星孝典監督（硬式野球部）、小島優子ヘッドコーチ（女子バスケット部）をそれぞれ迎え、また最近では、サッカーJリーグ・ベガルタ仙台との包括連携協定の締結、それに伴うクラブハウスや泉キャンパスグラウンドの整備計画（ラグビー場・サッカー場）など、徐々にではありますが体育会にも新しい風が吹き込んできております。このように大学に新しい扉が開き、また多くの体育会団体にも新たな風が吹き込み、それらの相乗効果から、活気ある大学、体育会活動へとつながってくれることを期待したいと思っております。引き続きの温かいご支援をよろしくお願ひいたします。



スポーツOB連合会創立50周年記念に寄せて

東北学院大学体育会会長 根市 一志

このたびは、TGスポーツOB連合会創立50周年、おめでとうございます。

東北学院大学体育会会長としてこのような機会に立ち会えることを光栄に思います。この素晴らしい節目を迎え、TGスポーツOB連合会の先輩方に心からの感謝とお祝いの気持ちをお伝えいたします。

東北学院大学体育会は100年以上にわたり、その歴史は数々の栄光と共に築かれてきました。東北地方においては、常に目標とされ、トップであり続け、常に勝つことを課されてきました。その活動を50年という長い期間にわたりサポートしてくださったTGスポーツOB連合会の先輩方に心から感謝申し上げます。

TGスポーツOB連合会のあゆみを拝見すると、全国的な大学紛争の中、1972年、母校を思う同窓生有志のご尽力によって発足したことを知りました。それから50年になりますが、その間、部の垣根を取り払った様々な交流、優秀選手や団体の表彰、2009年には会報「躍動」の創刊、2015年にはスポーツ講演会の開催など、先輩方の母校を思う気持ちがひしひしと伝わってきます。

会報「躍動」を読ませてもらうと、先輩方の活躍や現役学生の活動状況が定期的に発信されており、ほかの部の活動や活躍を知ることができ、とても励みになります。また、スポーツ講演会では、各界で活躍されている方の講演を聞くことができ、現役学生もたいへん刺激になっていると思います。

今年は、体育会陸上競技部が第55回全日本大学駅伝対校選手権大会に13年ぶりに出場し、五橋キャンパスにパブリックビューイングが設けられるほどの盛り上がりを見せました。このように、先輩方のご尽力、ご指導により、後輩たちもまた力強く、誇り高く成長しています。東北学院大学体育会はこれからも先輩方のご支援とご鼓舞を賜りながら、もっと高いところに目標をおき、それに向かって努力し、次の栄光へ向けて更なる飛躍を果たしていかなければなりません。

50周年という節目は、これまでの東北学院大学体育会の栄光と共にこれからの挑戦への意気込みを新たにすると同時に時でもあります。それを支えてくださる先輩方の絆がより一層深まり、TGスポーツOB連合会が益々発展していくことを心よりお祈り申し上げます。



創立50周年おめでとうございます

一般社団法人
青山学院大学体育会OBOG連合会
代表理事 榎本 正史

TGスポーツOB連合会の皆様、創立50周年まことにおめでとうございます。

日本の大学において、大学体育会の各部OB会が連合団体として運営されている組織は多くありません。検索サイトで「体育会OB連合会」と検索してみますと、ページのトップに「東北学院大学体育会OB連合会」が表示される以外、本学も含めても数えるほどしか確認できません。

そのような組織を50年にわたり運営・発展させてこられた貴会の皆様に敬意をこめて心よりお祝いを申し上げます。

新制大学移行直後の1950年にラグビー部、サッカー部、卓球部、硬式庭球部、軟式庭球部、バスケットボール部の6競技にて「第1回総合定期戦」として開催された両校の交流は本年75回目を迎えます。

両校体育会の複数の部に所属する多くの学生が、仙台と渋谷という遠く離れた地を交互に訪問して開催する定期戦が、学生運動や震災などのさまざまな困難な時期にも中断されることなく74年のあいだ継続していることは、日本の学生スポーツ界でも特筆されることではないでしょうか。

これは両校の選手や体育会常任幹事会、同学生本部の役員として参加する学生、教職員の皆様や指導者諸氏の弛まぬ支えの賜物ではありますが、個の部としてではなく「総合定期戦」として複数の部に所属する学生がそれぞれの競技を超えて出会い、交流を続けてきたことも大きく寄与したのではないかと感じます。

期せずして、両校の「体育会OB連合会」は定期戦開催の20年後、1970年前後にあいついで設立されています。

「東北学院大学対青山学院大学総合定期戦」で出会い、体育会という組織づくりを担った諸先輩方が互いの交流を重ねながら各OB会の中核メンバーとなり、複数のOB会が交流することの力を信じて両校に「体育会OB連合会」を設立された。

まさにこの定期戦が両校のOB連合会発足の礎になったのではないかと考えてなりません。

1969年に「青山学院大学体育会OB連合会」として発足した当会も、現在は全てのOBOG会45団体が加盟、2013年にはOBOG連合会と改名し、2019年一般社団法人に組織変更いたしました。学生スポーツに世の中の注目が集まるなか、OBOG会組織のガバナンス強化など、新たな取組を学校法人・大学との協定のもとで共にすすめていく必要があると判断したためです。

総合定期戦を礎として設立された両校のOB連合会の交流が、この度のTGスポーツOB連合会創立50周年を機にますます活発となりますことを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。



創立50周年を祝して

北海学園大学体育会OB連合会 事務局長 浜野 道敏

TGスポーツOB連合会の50周年 誠におめでとうございます。

長年に渡り、東北学院大学及び体育会発展に寄与された功績は多大なるものと察します。

東北学院大学は東北の雄として、北海学園大学は北海道の雄として、それぞれの地域発展に顕著な功績をあげて来たものと自負しています

これからも地域に密着した地方の大学の有として、中央の大学に劣ることなく発展に寄与するものと確信しております。

大学の創設時期も北海学園大学が明治18年、東北学院大学が明治19年で歴史と伝統のある大学として君臨し、その地位を築いてきました。その中核をなして来たのが両大学の体育会OB諸氏の力があつたと思います。これからも母校発展に尽くされると願っております。

両大学がこのような関係にあつたのもすべて「総合定期戦」が始まりであります。

この定期戦が始まったのは、昭和29年に勇気ある北海学園大学の一学生が仙台を訪れ、当時の小田忠夫学長に直接願い出た本学初代幹事長の早坂久良氏の大胆なる行動がきっかけであった。その後、東北学院大学は星宮学生部長と北海学園大学の三森補導部長とが大学間の協議を重ね、第一回大会が昭和30年6月に札幌の地で開催されました。

その時、仙台から18時間を要し、200人（客車2両貸切）を超える学生が遠征し、中島スポーツセンターで開会式を終えて、ボクシング種目を皮切りに8種目の熱戦が繰り広げられ、第1回は、東北学院大学が5勝3敗の成績で総合優勝を飾りました。

その後、北海学園大学は、一度も勝利することなく今年で70回目を迎えることとなりました。

その間、教職員やOB等多くの関係者と交流ができました。これもひとえに兄貴分である東北学院大学のご指導のお陰と深く感謝申し上げます。

最後に、これからの大学は、若者の人口減により、学生を確保するのが大変厳しい時期を迎えようとしています。今こそこの難関を切り抜けるために、OBの力が不可欠かと思えます。

今後も、両大学の交流が永遠に続くことを願い、50周年記念のご挨拶といたします。

TGスポーツOB連合会のあゆみ

昭和46年（1971年）

- 全国的な大学紛争の波の中で、本大学にも波及し、学内が非常事態宣言のもと、教職員の支援のため、母校を思う同窓生有志が学内警備体制を組織し、献身した。

昭和47年（1972年）

- 春に上記に献身奉仕した有志の会から自然発議のもとに「TG春秋会」という名称で懇親の会を開催。（第1回総会を開催）
- 第2回総会を12月11日東北学院同窓会館にて開催

昭和48年（1973年）

- 第3回総会を5月10日東北学院同窓会館にて開催。規約を整備し、東北学院大学体育会OB連合会の形で発足するよう準備を開始した。
- 第4回総会を11月22日東北学院同窓会館にて開催。下記事項を決定した。

会則の承認

役員承認

【会 長】大石 栄一

【副 会 長】岡 大門

【副 会 長】佐藤 良助

【幹 事 長】江馬 成夫

表彰（勲功賞）について承認

【第1号】卓球部員 板橋三恵子（日本代表として国際大会出場）

【第2号】準硬式野球部員 八島信男（日本代表として韓国遠征に出場）

昭和57年（1982年）

- 大石栄一会長逝去（11月26日）

昭和58年（1983年）

- 総会（2月9日開催）にて次のことを決定した。役員改選について承認

【会 長】岡 大門

【副 会 長】佐藤 良助

【幹 事 長】江馬 成夫

分担金納入について承認

年間5,000円を加盟団体から分担金として徴収し、会の事業運営の経費に充当する。

平成元年（1989年）

- 佐藤良助副会長逝去（6月1日）

平成2年（1990年）

- 総会（2月6日開催）にて次のことを決定した。
 - 会則の一部改正を承認
 - 顧問（理事長・院長・大学長）
 - 相談役（学生部長・体育会長・副会長・同窓会総主事）
 - 参与（加盟団体OB会長）
 - 事務局を設置した。（第7章）
 - 副会長の後任については当分の間、空席とすることについて承認

平成5年（1993年）

- 総会（2月8日開催）にて次のことを決定した。役員改選について承認

【会 長】江馬 成夫

【副 会 長】菅野 昭弘、小藤 恭正

【幹 事 長】森 俊博

【監 事】高橋 良夫、小野 宏

【事務局長】高橋 嘉男

本会第2代会長 岡 大門氏の「東北学院同窓会長特別表彰」上申について承認

平成6年（1994年）

1. 総会（2月10日開催）にて次のことを決定した。
 - 会則の改正について案分を作成し、幹事会にはかり、改正の手続きを本年度中に完了する

ことについて承認。

2. 総会の席上、東北学院同窓会長情野鉄雄先生から岡 大門前会長に感謝状が贈呈された。
 3. 幹事会（8月8日仙台国際ホテル開催）にて次のことについて審議し、臨時総会に提案することを決定した。
 - ・会の名称変更のこと
 - ・会則の改正のこと
 - ・今後の会の運営のこと
 4. 臨時総会（10月28日開催）にて次のことを決定した。
 - ・会の名称を「TGスポーツOB連合会」とした。
 - ・会則を改正し、平成6年（1994年）10月28日改正施行とした。
 - ・年会費（旧分担金）は改正せず、5,000円とした。

ただし、未納団体には確実に納入してもらうよう強く働きかけていくことを確認した。

 - ・終身会費の徴収については原則的には各加盟団体OB会に依頼する。

一人3,000円とする。徴収に先立って、卒業前に学内にて機会を設けて会の主旨、目的、加入のすすめ等を説明し、理解と協力を求めることは不可欠なことである。

納入者氏名は会報等により団体毎に紹介することが付記された。

 - ・より具体的なことについては、常任幹事会で検討していくこととした。
- ・岡 大門第2代会長逝去（10月29日）

平成7年（1995年）

- ・TGスポーツOB連合会参与会（加盟団体OB会長で構成）（4月11日開催）
 - ・今後の本会事業展開への協力要請
 - ・重要事項の総会付議前には参与会での意見を伺う
 - ・加盟団体OB会、監督会との意思疎通を積極的にはかりつつ、体育会の発展に寄与してい

く。

以上の各点について、活発な意見交換ののち、協力を確認した。

- ・合わせて、大学当局出席者との有意義な交流もはかられた。

平成9年（1997年）

- ・総会（2月12日開催）にて役員改選が行われ、次の通り決定した。

新役員が次の通り決定した。

【会 長】江馬 成夫

【副 会 長】菅野 昭弘、工藤 哲男

【幹 事 長】森 俊博

【監 事】高橋 良夫、菅野 健

【事務局長】高橋 嘉男

平成10年（1998年）

- ・参与会と幹事会との合同会議（11月18日開催）
- ・対青山学院大学総合定期戦50周年記念大会の開催について協議した。
 - ・OB戦の持ち方
 - ・記念祝賀会出席のこと。
 - ・パネル展示への資料提供のこと。
- ・活発な意見交換ののち積極的に協力していくことを確認した。

平成11年（1999年）

- ・総会（2月12日開催）にて役員改選が行われ副会長菅野昭弘氏が退任、伊藤哲夫氏（卓球部OB）が就任した。

新役員が次の通り決定した。

【会 長】江馬 成夫

【副 会 長】伊藤 哲夫、工藤 哲男

【幹 事 長】森 俊博

【監 事】高橋 正博、菅野 健

【事務局長】高橋 嘉男

- ・5月28日から30日までの3日間にわたり、本学が主管となり対青山学院大学総合定期戦50周年記念大会が開催された。特にパネル写真展、記念祝賀会は多数の参加者

を得て、盛大に開催された。

また、記念誌「50年のあゆみ」が刊行された。
本会会員が積極的に協力し、成功裡に終了した。

平成12年 (2000年)

- 総会（2月14日開催）において、体育会設立50周年記念事業について、実施要項案が提案され、全会一致で協力支援することが承認された。

事業実施内容は次の通りである。

- 記念講演会、シンポジウム・記念祝賀会
平成13年（2001年）3月3日（土）午後4時～午後8時 仙台国際ホテル
- 「東北学院大学体育会50年史」の発刊

平成13年 (2001年)

- 総会（2月14日開催）において、本会会長江馬成夫が体育会設立50周年祝賀会において、体育会発展に尽力した功勞に対して体育会長から感謝状が贈呈された旨、報告された。

平成14年 (2002年)

- 総会（2月13日開催）において、本年が本会設立30周年にあたるとのことで、記念事業等の計画について話し合われたが、詳細の検討は幹事会に付託された。
- 幹事会（9月26日）において、設立30周年記念事業計画について種々協議の結果
◎幹事忘年懇親会を開催し、横のつながりを強めることにした。（12月2日開催）
○平成14年度総会を冠総会として盛大に開催することにした。

平成15年 (2003年)

- 総会（2月12日開催）において、役員改選が行われ、副会長伊藤哲夫氏が退任、天江皓一氏（準硬式野球部OB）が就任した。
新役員が次の通り決定した。
【会 長】江馬 成夫
【副 会 長】天江 皓一、工藤 哲男

【幹 事 長】森 俊博

【監 事】高橋 正博、菅野 健

【事務局長】高橋 嘉男

- 同時に会則の改正が行われた。

副会長3名、幹事は各部会OB会より選手された者2名と会長委嘱の者若干名で構成するとした。（次回平成17年開催の総会（役員改選）より実施する）

- 東北学院創立117周年、同窓会設立100周年記念事業が行われた。

記念行事の主なものは次の通りである。

◇記念TG交流カクテル&ビアパーティー
7月25日（金）仙台国際ホテル

◇記念講演会

10月23日（木）東北電力ホール

◇記念チャリティゴルフ大会

11月14日（金）仙台カントリークラブ

◇記念礼拝

11月15日（土）ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

◇記念式典・記念パーティー

11月15日（土）江陽グランドホテル

- 本会はTG会の一会として、仙台同窓会のもと、記念事業立案の段階から積極的に加わり、諸事業展開に大きく貢献した。
- 体育会監督会と本会幹事会との懇親会を開催（12月8日）意見交換を行った。

平成16年 (2004年)

- 対北海学園大学総合定期戦50回記念大会が6月12日から14日までの3日間にわたり、本学が主管となり開催された。
主な記念事業として、総合定期戦の他、記念植樹、記念誌「熱きたたかいー50年の軌跡」発刊、記念祝賀会」が実施され、本会会員が積極的に協力し、成功裡に終了した。

平成17年 (2005年)

- 総会（2月15日開催）において役員改選が行われ、会長江馬成夫氏、副会長工藤哲男氏、事

務局長高橋嘉男氏が退任、新体制の会長に本間良一氏（サッカー部OB）、副会長に佐藤正氏、森俊博氏、幹事長に高橋富士男氏、事務局長に石山仁氏が就任した。

新役員が次の通り決定した。

【名誉会長】江馬 成夫

【会 長】本間 良一

【副 会 長】工藤 哲男、天江 皓一、
佐藤 正、森 俊博

【幹 事 長】高橋富士男

【監 事】高橋 正博、菅野 健

【事務局長】石山 仁

- 体育会ホームページ構築について新年度から実施することを決定した。
- 江馬成夫前会長の功績を称えて、「東北学院同窓会長特別表彰」の上申を承認した。

平成18年（2006年）

- 総会（2月16日開催）において会則の改正が行われた。

幹事を理事に名称変更。専門委員会を設置し、会計年度を1月1日から12月31日までに変更した。

平成19年（2007年）

- 総会（2月15日開催）において会則の改正が行われた。

会則第15条の終身会費について、平成6年度臨時総会において導入以来、その納入率は極めて低く、平成19年度より廃止することとなった。

平成20年（2008年）

- 総会（2月14日開催）において会則の改正が行われた。

平成18年度総会から継続審議されてきた会則第2条（目的）の文言の一部「スポーツ推薦等と」の削除が承認された。

平成21年（2009年）

- 総会（2月13日開催）において役員改選が行

われ、副会長天江皓一氏が退任し、仲嶋一雄氏が就任した。

新役員が次の通り決定した。

【名誉会長】江馬 成夫

【会 長】本間 良一

【副 会 長】仲嶋 一雄、森 俊博、
栗野 眞

【理 事 長】高橋 富士

【監 事】高橋 正博、菅野 健

【事務局長】山田 純

- T GスポーツOB連合会の旗（紺地に白色で大学マーク、会名称）を作成した。
- 会報「躍動」創刊。

平成22年（2010年）

- 総会（2月17日開催）において、体育会常任幹事会OB・OG会の入会が承認された。
- 第1回T G・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 会報「躍動」第2号発行。

平成23年（2011年）

- 総会を2月18日に開催した。
- 第2回T G・チーム対抗ゴルフ大会開催。第1回と第2回のチャリティ募金額10万円をキリスト教育児院に寄付した。
- 会報「躍動」第3号発行。

平成24年（2012年）

- 総会を2月9日に開催した。
- 第3回T G・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 会報「躍動」第4号発行。

平成25年（2013年）

- 総会（2月6日開催）において会則の改正が行われた。

OB個人を対象としていた会則を各OB団体を対象とした会則に改定。これにより、会則第1条を「各部OB会、並びに応援団OB会、体育会常任幹事会OB・OG会を以って」とした。また、これに伴い、会則第5条を削除した。

- 同時に役員改選が行われ、本間良一会長が退任、後任の会長には仲嶋一雄副会長が就任した。また、相談役については、学長室長、学生部長、体育会長の3氏とした。

新役員が次の通り決定した。

【名誉会長】本間 良一

【会 長】仲嶋 一雄

【副 会 長】佐藤 順、高橋富士男、
栗野 眞

【理 事 長】大友 富雄

【監 事】八島 康治、松本 宏一

【事務局長】山田 純

- 年会費を5,000円から10,000円に改定した。
- 設立40周年を期に、各団体に加盟届の提出を依頼することになった。
- 第4回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 会報「躍動」第5号発行。

平成26年 (2014年)

- 総会を2月20日に開催した。

加盟届の届出状況

届出 37団体

(合気道部 アメリカンフットボール部 空手道部 弓道部 剣道部 硬式野球部 ゴルフ部 サイクリング部 サッカー部 山岳部 少林寺拳法部 自転車競技部 自動車部 柔道部 準硬式野球部 水泳部 スキー部 スキューバダイビング部 相撲部 ソフトテニス部 卓球部 軟式野球部 ハンドボール部 バスケットボール部 バドミントン部 バレーボール部 フェンシング部 ボート部 ボクシング部 ヨット部 ライフル射撃部 ラグビー部 陸上競技部 レスリング部 ワンダーフォーゲル部 応援団 体育会常任幹事会)

退会 1団体

未提出 8団体

- 第5回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 会報「躍動」第6号発行。

平成27年 (2015年)

- 総会(1月30日開催)において役員改選が行

われ、仲嶋一雄会長が退任し、高橋富士男副会長が会長に就任した。

新役員が次の通り決定した。

【会 長】高橋富士男

【副 会 長】佐藤 順、菊地 祐一、
高橋 公晴

【理 事 長】大友 富雄

【監 事】八島 康治、松本 宏一

【事務局長】曾根 邦敏

- スケート部OB会とボウリング部OB会が加盟届を提出した。
- 加盟届の届出状況
- 届出 39団体
- 退会 1団体
- 未提出 6団体
- 第6回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 第1回スポーツ講演会開催。
- 会報「躍動」第7号発行。

平成28年 (2016年)

- 総会を2月12日に開催した。
- 第7回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 第2回スポーツ講演会開催。

平成29年 (2017年)

- 総会(2月9日開催)において役員改選が行われ、次の通り決定した。

【会 長】高橋富士男

【副 会 長】佐藤 順、菊地 祐一、
高橋 公晴

【理 事 長】大友 富雄

【監 事】館崎 智信、廣瀬 理行

【事務局長】曾根 邦敏

- 洋弓部OB会が加盟届を提出した。

加盟届の届出状況

届出 40団体

退会 1団体

未提出 5団体

- 第8回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- 第3回スポーツ講演会開催。

- ・会報「躍動」第8号発行。

平成30年（2018年）

- ・総会を2月9日に開催した。
- ・第4回スポーツ講演会開催。

平成31年・令和元年（2019年）

- ・総会（2月7日開催）において役員改選が行われ、次の通り決定した。
【会 長】高橋富士男
【副 会 長】佐藤 順、菊地 祐一、
高橋 公晴
【理 事 長】大友 富雄
【監 事】館崎 智信、廣瀬 理行
【事務局長】曾根 邦敏
- ・2019体育会学生対象就職ガイダンス開催。
- ・第5回スポーツ講演会開催。
- ・第9回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- ・会報「躍動」第9号発行。冊子体としての発行を終了した。

令和2年（2020年）

- ・総会を2月6日に開催した。
- ・2020体育会学生対象就職ガイダンス開催。
- ・第6回スポーツ講演会開催。
- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックにより、TG・チーム対抗ゴルフ大会を中止し、その他の活動も大きく制限された。

令和3年（2021年）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、2月22日から3月5日の間で郵送による書面表決方式により総会を開催した。
- ・感染拡大防止のため活動が大きく制限されてきたことから、役員改選は一年遅らせることになった。
- ・第10回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- ・体育会学生対象就職ガイダンス及びスポーツ

講演会は、感染拡大防止のため中止した。

令和4年（2022年）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、2月7日から2月21日の間で郵送による書面表決方式により総会を開催した。
【会 長】大友 富雄
【副 会 長】武田 均、菊地 祐一、
松本 宏一
【理 事 長】高橋 公晴
【監 事】館崎 智信、廣瀬 理行
【事務局長】曾根 邦敏
- ・第7回スポーツ講演会開催。
- ・第11回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。
- ・2024年3月卒体育会学生対象就職ガイダンス開催。

令和5年（2023年）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、2月10日から2月24日の間で郵送による書面表決方式により総会を開催した。
- ・第8回スポーツ講演会開催。
- ・第4回体育会学生向け就活準備セミナー（体育会学生対象就職ガイダンス）
- ・第12回TG・チーム対抗ゴルフ大会開催。

各部から



一粒の種に学ぶ

— 五橋キャンパスに播かれた「和合」の種に —

TGスポーツOB連合会が設立50周年を迎えられること、心からお祝い申し上げます。この節目の機にあたり、本学合気道部の発足当時に思いを馳せながら、改めて今日までの部の足跡をたどりしたいと思います。

思えば、本学合気道部（同好会）のスタートは、昭和36年6月、本学元職員木村和雄先生の情熱と菅原月秋先生の演武指導が始まりでした。木村先生は次代を担う青少年の人格形成に武道の心である「合気道」精神が極めて有益であることを学内外に提唱しました。昭和40年10月、その熱意が叶い、念願の課外活動団体として正式に部へ昇格、初代部長には木村和雄先生が就任しました。

本学合気道部は、創部以来、初代斉藤守弘師範、大宮司雅一郎師範、半沢義巳師範をはじめとする人間味溢れる先生方の愛の演武指導により「合気道の心」が継承されています。斉藤先生は学生たちを前に合気道を学ぶ上で、特に「修行の心構え」「基本の練習」そして「心の修行」が大事であり、またその反復こそが「合わせ」の道となり「克己」を拓く道であると説かれました。また半沢先生は、学校教育における合気道の価値や可能性をいち早く見出し、学校教育の現場での指導にも取り組みました。本学及び榴ヶ岡高校では、キリスト教精神と合気道の「和合」の心を用いた教育を実践し、本学のみならず、地域社会全体の教育文化の向上にも大きな功績を残されました。このほど文科省の新たな学習指導要領の「体育」の単元で「武道」が設けられ、学校教育の場に正式に合気道の授業が取り入れられるようになりました。半沢先生が「学校教育の現場に合気道を」「合気道は愛の武道なり」と次代を担う青少年の健全教育のために「合気道の素晴らしさを広めたい」と熱く語っていた四十数年前の日々が、つい昨日のように思い出されます。あらためて、強い信念と行動力で合気道と教育道を説き続けていた

だいた先生方に心から感謝を申し上げる次第です。

本学合気道部は平成23年7月のOB会員名簿によると、OB・現役合わせて400名を数える大きな人宝となりました。さらに、令和5年4月からは五橋キャンパスが開校し、新部長志子田有性光先生、本学OB 根本仁志師範・樋渡昭彦監督・鈴木博之指導員に、吉城明彦先輩、高橋雅裕先輩等も加えた新たな体制、文理和合した本学合気道部の新たな歴史がスタートしました。また同時に本学合気道OB・OG会も新たな体制となりました。本学の心「地の塩」「世の光」と「学院合気道の光の伝統」を継承する学生たちの活躍と部の益々の発展を大いに期待しているところです。本学に播かれた「合気道の一粒の種」、その意義や価値を本学合気道関係者と本学を愛するたくさんの方々と共にし、次の50年に向けても大切に育て実らせていきたいと思えます。本学関係者及び地域の皆様方におかれましては、今後とも本学合気道部に対して温かいご支援とご指導を賜りなすようお願い申し上げます。

東北学院大学合気道部OB 高橋 正博

東北学院大学合気道部のあゆみ (1961～2023 略歴)

- 1961 昭和36年 6月15日 合気道同好会発足
- 1963 昭和38年11月 東北学生合気道連盟に加盟
- 1964 昭和39年10月 初めての岩間合宿11月東北学生合気道連盟演武会に参加
- 1965 昭和40年10月 5日 部に昇格
木村和雄先生 初代部長に就任
斎藤守弘先生、大宮司雅一郎先生、半沢義巳先生を師範にお迎えする。
- 1966 昭和41年11月 5日 東北学院大学創立80周年記念第一回演武会参加
- 1968 昭和43年 7月 東北学生合気道連盟幹部合宿参加
- 1969 昭和44年 4月26日 合気道開祖植芝守盛平翁御逝去
昭和44年10月 4日 植芝盛平翁追悼演武会参加
10月12日 全日本故植芝盛平翁追悼演武会参加
- 1971 昭和46年 5月29日 東北学完大学体育会合気道部 10年の歩み演武会開催
- 1972～1973 昭和47～48年 斎藤師範の「三十一の杖」が広瀬川での稽古中に誕生、本学合気道部の宝となる
- 1973 昭和48年10月13日 宮城県合気道協会創立、加盟10周年記念演武会参加
- 1979 昭和54年 4月 90周年記念館地下道場開き
- 1981 昭和56年11月22日 東北学院大学体育会合気道部創立20周年記念演武会開催
- 1986 昭和61年11月23日 東北学院大学体育会合気道部創立25周年記念演武会開催
- 1989 平成元年 3月 木村和雄部長に代わり大江善男新部長就任
- 1991 平成 3年11月16日 東北学院大学体育会合気道部創立30周年記念演武会開催
- 1996 平成 8年 5月 4日 斎藤守弘先生合気道入門 50周年祝賀会参加
5月16日 「半沢義巳先生記念講演会・並びに半沢先生ご夫妻に感謝する会」参加
11月30日 東北学院大学体育会合気道部 35周年記念演武会開催師範演武 半沢義巳師範
11月30日 東北学院大学合気道部OB会総会 会長名幡賢一ご挨拶
- 1998 平成10年10月 東北学院大学合気道部OB会名簿改訂版
- 1999 平成11年 3月 大江善男部長に代わり高木龍一郎新部長就任
- 2000 平成12年 4月26日 当部師範半沢義巳先生御逝去
10月29日 半沢義巳先生追悼演武会及び偲ぶ会参加
- 2001 平成13年 3月 西村枝美新部長就任
4月 本学合気道師範にOB 根本仁志先生をお迎えする。
11月10日 東北学院大学体育会合気道部創立40周年記念演武会開催
- 2002 平成14年 5月13日 当部師範斎藤守弘先生御逝去
- 2006 平成18年 3月 西村枝美部長に代わり高橋彌穂新部長就任
11月18日 東北学院大学体育会合気道部創立45周年記念演武会開催
- 2011 平成23年 3月11日 東日本大震災・東北地方太平洋沿岸に「巨大地震・巨大津波」発生、甚大な被害
7月20日 東北学院大学合気道部OB会名簿改訂版
卒業生会員総数389名、現役数を加えると400名超える
9月 松本洋之新部長就任
9月 「50周年記念演武会」現役・OB準備に入る
11月19日 東北学院大学体育会合気道部創立50周年記念合気道演武大会開催
「記念演武会」を通して「東日本大震災」で甚大な被害を受けた被災者に一日も早い復旧・復興の願いを込めた演武に温かい拍手が送られた。
2011.3.11から東日本大震災の復旧・復興が続く
- 2016 平成28年 4月17日 「東日本大震災」により新入部員大幅に減少 現役・OBで対策を検討
- 2017 平成28年 3月 楊世英先生 新部長就任
- 2018 令和 2年 3月 高橋正博監督に代わり樋渡昭彦新監督就任
- 2019 令和元年 ～ 新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるい、社会生活に制限、一時的に大学も閉鎖となる（令和 5年 5月 感染症法上の 5類に引き下げられ日常生活が戻る）
- 2023 令和 5年 4月 志子田有光新部長就任
- 2023 令和 5年 4月 1日 東北学院大学五橋キャンパス開校文系、理系同一キャンパスに

アメリカンフットボール部

はじめに令和6年能登半島地震に際し、被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

TGスポーツOB連合会が創立50周年を迎えられましたこと、お祝い申し上げます。

我がアメリカンフットボール部も体育会では若いクラブではありますが、2025年に創部50年を迎えます。これもひとえに本学学長をはじめ教職員の皆様、各部のOB・OG・現役の方々のご支援の賜物と感じております。この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

この間、東北の雄となり東北大学とともにリーグをリードする時期もありましたが、近年は部員数減少による廃部の危機も経験いたしました。この数年は復活を目指して、監督・コーチングスタッフの充実、トレーニングクリニック受講、栄養学講義、

フィジカル・ファンダメンタル・メンタルの強化を行い、昨年はリーグ3位と徐々にではありますがステップアップしております。

また、新歓対策企画としてOB/OG会による防具購入費援助を行い、多くの新入部員を迎えられるよう協力し、創部50年の2025年には東北の雄となることを目標に活動しております。さらには次の50年にむけ、現役・スタッフ・OB/OG会が一体となり『どんなチームにするか、何をを目指すか』を明確にし、そのために明日から何をし、何をしなければならないかの行動が決まると考えております。たとえば外国人コーチクリニック、海外や米軍基地でのサマーキャンプ等により国際交流を図り、他国の文化や言語を吸収し、アメリカンフットボールだけでなく世界に対応出来る学生を育てられれば最高であると思います。

今後とも皆様方のご指導ご協力よろしく申し上げます。

OB/OG会 会長 高橋 公晴



空 手道部

新年あけましておめでとうございます。

日頃より空手道部OBOG会活動へのご支援ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

また、本年はT Gスポーツ連合会設立50周年を迎えられ誠にありがとうございます。会長はじめ役員の皆様及び会員の皆様の並々ならぬご尽力の成果とお慶び申し上げます。

さて、我々空手道部OBOG会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い約4年間のすべての対面事業を休止しておりましたが、令和5年度から感染症5類移行を受けてすべての活動を再開致しました。その中で最も大きな活動となった「青山学院定期戦」をご紹介します。

活動自粛前の「青山定期戦」（以下「定期戦」）の仙台開催は、現役学生が主体となり準備開催しておりましたが、令和5年度から、「定期戦」の成功をOBOG会活動計画の主軸と掲げ、現役学生と共同して準備開催いたしました。

今まで現役学生に任せていた青山学院選手及び関係者の宿泊手配、会場の設営、大会運営（記録、進行、審判、予算）準備進行、青山学院及び当学OB対応、親睦会開催に関する準備を現役学生と共に進めました。

結果、今までにないOBOGの参加となり、活気のある「定期戦」となる事ができました。

これまでのOBOG会活動を考えると画期的な事であり、今後の現役学生とのコミュニケーションのあり方を変える大成果と言える事ではないかと考えております。

今の現役世代は、新型コロナウイルスによる活動自粛に大きな影響を受けており、活動の休止、他部対外活動及びOBOGとの接触自粛等、技術的向上とは別の本来部活動運営で学ぶ事ができる経験を残念ながらできない世代でした。そのため、上下間のコミュニケーションが希薄となり、部運営や催事についての継承をされておりました。

そこでOBOGの豊富な経験や知見を活用し、令

和5年「青山定期戦」を成功したことは、現役学生にとって今後の大いなる財産になると考えます。

我々OBOG会としても、このような現役学生とのコミュニケーションが本来の学生支援の在り方ではないかと考えさせられる良い経験となりました。

現在各部のOBOG会活動を執りおこなっている主役員年齢層の時代と比べると、同じ競技でも試合、ルール、それに伴うトレーニング方法が変わり、精神論から科学的根拠に基づいたトレーニングに代わっており、直接的な技術支援やアドバイスが出来なくなっている傾向にある中で、OBOGが現役学生にできる支援として、社会活動に活用できる経験を伝えていくことだと感じております。

我々世代が学生時代に経験した事、更には社会活動で経験した事を伝達し、部活動を通じて一緒に体験する事が、将来社会に出る現役学生にとって大きな財産となり、社会へ出たときに後輩へ伝達することでOBOG会活動に回帰するという循環的な活動を目指していきたいと考えております。

今後も、空手道部OBOG会へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、弊会の活動紹介とさせていただきます。

空手道部OBOG会 会長 鈴木 成久



令和5年6月3日 東北学院大学地下道場にて

剣道部

東北学院大学体育会剣道部後援会

活動状況報告

TGスポーツOB連合会創立50周年、誠におめでとうございます。

日頃より東北学院大学体育会剣道部後援会に対しましては、多大なるご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

我が剣道部は大正9年（1920年）の創部であり、2020年には創部100周年を迎えました。新型コロナウイルス禍のため、式典については2022年に開催する運びとなりましたが、学長はじめ多くの大学関係者様、諸先輩方からお祝いいただき、盛会のうちに終えることができました。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

さて新型コロナウイルスも第5類感染症へと移行しましたが、依然その脅威は続いております。しかしながら2024年は、未来へ大きく飛躍する輝かしい年にすべく、体育会剣道部一丸となり、より一層の努力、精進をする所存でございます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻よろしく願いすると共に、TGスポーツOB連合会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2023年度の主な活動

- ・2023年4月 第71回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪府）
後藤 俊之（平成3年度卒業）山形県代表チームの大將として出場
- ・2023年9月 第78回国民体育大会剣道競技（鹿児島県）
澤田 裕和（平成9年度卒）宮城県代表チームの副將として出場
- ・2023年9月 第20回 東北学連剣友剣道大会（本学体育館）
2チーム出場 Aチーム「優勝」、Bチーム「準優勝」
- ・2023年11月 第35回ねんりんピック剣道競技（愛媛県）

宮城県代表 菊田 迅人（昭和57年度卒業）

酒井 俊治（昭和58年度卒業）

仙台市代表 浜崎 敏之（昭和57年度卒業）

- ・2023年12月 第34回関東学連剣友剣道大会出場（東京都）

東北学院大学体育会剣道部後援会・関東支部より
2チーム出場

会長 酒井 俊治

東北学院大学体育会剣道部

活動状況報告

TGスポーツ連合会に於かれましては、創立50周年迎えられること心よりお祝い申し上げます。ますますのご発展を祈念すると共に、引き続き東北学院大学体育会剣道部へのご支援のほど、よろしくお願いいたします。

東北学院大学剣道部監督を務めさせていただいております、平成9年度卒業の澤田裕和と申します。

本剣道部の活動についてですが、新型コロナウイルスの影響により、2020年度から各種大会の中止および活動の大きな制限等、学生にとっても指導者にとっても苦しい状況が続きました。しかし、そのような中でも、昨年度の東北学生剣道優勝大会及び女子剣道優勝大会において、本学は実に21年ぶりに男女同時優勝を果たすことができました。

今年度は、東北予選の大会では優勝できませんでしたが、一方で新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことで、平時とほとんど同等の活動ができる状況になりました。これまでは進み出しては止まるような状況で先行き不安な状態で学生達も活動しておりましたが、少しずつ課外活動に対して希望を見出しながら取り組むことができいております。

各種大会結果については、個人戦である全日本学生剣道選手権大会および全日本女子学生剣道選手権大会に本学からは東北予選を勝ち抜いた男子4名（東北枠14名）、女子4名（東北枠6名）が出場しました。最高成績は女子の3回戦進出が1名で、ほかは1回戦もしくは2回戦での敗退となりました。しかし女子の大会後に開催された全日本女子学生剣道東西対抗試合において、本学から出場した選手が

東軍の優秀選手賞を受賞しました。

団体戦では、9月に開催された東北学生剣道優勝大会では男子団体が第3位、東北女子学生剣道優勝大会では女子団体が準優勝という結果でそれぞれが全国大会へと駒を進め、男女共に2回戦で敗退しました。

新体制となった東北学生剣道新人大会団体では、男子Bチームが優勝、Aチームが3位入賞、女子も優勝し、男女同時優勝を果たしました。また、同大会個人の部では、男子1名が3位入賞いたしました。

続く全日本基督教関係大学剣道大会では、女子団体が3位、女子個人で準優勝と全国大会での入賞を果たしました。

新体制として上々のスタートを切ることができました。来る全国大会予選、およびその先の全国大会入賞を目指し、鋭意努力して参りたいと思いますので、引き続き応援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

監督 澤田 裕和



硬式野球部

硬式野球部活動報告

常日頃からTGスポーツOB連合会の大友会長様ならびに役員の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。またこの度、設立50周年を迎えました事、硬式野球部OB会一同、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスもだいたい下火になったとはいえ、我々野球部OB会も令和5年の活動においては総会・壮行会の中止と、ご多分に漏れず大きな行事は中止、東京支部、盛岡支部も全て活動中止となりました、活動としては7月の練習場を訪れての現役支援、そして1月・8月・12月の役員会・懇親会を行いました。現役支援においては現役諸君との懇談や練習風景を見学、また2月より新監督となられた野球部OBであり、読売巨人軍・西武ライオンズで活躍し、楽天でもコーチをしていた星孝典君の話も聞け、参加者一同、野球部と想いを共有する事が出来、益々の応援・支援の必要性を感じたところで御座います。また12月の役員会・懇親会においては星監督の激励会も兼ね、各OB・OGの現況や今後のOB会のあり方を話しました、その後は流れに乗って2次会でだいぶ盛り上がったようで御座います。

皆様ご存じと思いますが、現在プロ野球界には楽天イーグルスの岸孝之君、西武ライオンズの本田圭佑君の2名が活躍しております。岸君は楽天の最多勝投手で有り、本田君も防御率1.56と素晴らしい成績を上げており、我々OBとしても誇りであり更なる飛躍を期待したいと思います。

令和6年度におきましては、従来通りの事業計画を予定しております。役員会・現役激励会・現役壮行会・TGスポーツ連合会総会参加・ビヤパーティ・各ゴルフコンペ参加・そしてOB総会開催です、沢山のOB・OGに参加して頂けるようみんなで力を合わせて頑張り、あとはコロナやインフルエンザが落ち着くようお祈りするしかありません。

最後になります。TGスポーツOB連合会の更なる発展と会員、ならびにご家族の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

硬式野球部OB会 会長 齋藤 義晴

監督として母校へ

この度はTGスポーツOB連合会創立50周年の節目をお迎えになられました事、誠におめでとうございます。

これまでの歴史を支えてこられました役員ならびに会員の皆様、歴代会長および関係者の皆様には大変なご苦労があったことと存じます。心より敬意を表します。

2023年の2月より硬式野球部の監督を仰せつかりました。私は本学を卒業後、読売巨人軍、埼玉西武ライオンズで選手を合わせて12年、その後は埼玉西武ライオンズ、東北楽天ゴールデンイーグルスでコーチを合わせて6年、合計18年間プロの世界で経験をさせていただきました。選手として、プロの世界でどう戦っていくか試行錯誤を繰り返し、決して満足いく数字は残せなかったものの、1球の重みや、ファンあってのプロスポーツならではの応援の偉大さ、プレーだけではない様々な形で貢献ができる事など野球というスポーツに多角的に向き合うことができました。コーチとしての6年間は、指導する難しさや選手が成長していく喜び、根気強く向き合っていく大切さを知りました。これまでの経験をもとに、現在の学生や活動環境の現状への理解に努め、より良い活動ができるよう努力していく次第でありますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

監督を任せられ、1シーズンが経ちましたので近況を少し書かせていただきます。

現在、硬式野球部では69名の部員で活動しております。2023年の春季リーグ戦では4年ぶりに仙台大学から勝利するも、勝ち点を挙げる事が出来ず3位という結果に。秋季リーグ戦は初戦の東北工業大学で勝ち点を落とし、その後春季リーグに続き仙台大学から勝利を挙げるも勝ち点を取る

ことができず4位という結果に終わりました。順位を上げることができず悔しい限りではありますが、4年間勝つことのできなかつた仙台大から勝利を挙げ、課題だった得点力も向上するなど成果もありました。優勝も決して届かないものではないという意識も選手の中に芽生え始めた一方、今回4位を経験したように短期決戦の難しさも感じたシーズンでした。

所属する仙台六大学リーグでは、東北福祉大学に次ぐ2番目の18回の優勝を誇る本学ですが、リーグ優勝は2012年の秋季リーグ戦以来11年、全国大会出場には2006年に東北楽天ゴールデンイーグルスで現在も活躍する岸孝之選手（2006年度経済学部卒）を要し出場した以来17年、長らく遠ざかっております。そのリーグ優勝、全国大会出場を目標に野球人としてだけでなく一人の人間という所から見つめ直し、野球と向き合い活動しております。新キャンパスへの移転に伴い、キャンパス間の移動や練習時間の確保が一つの課題となっておりますが、学生たちと共に時間やメニューを工夫しながら成果を上げることができるよう努力して参ります。

また、硬式野球部の目指すべき姿が「熱くさせる存在」です。1球にかかる思いや一生懸命な姿、手に汗握るプレーで見てくださった方々の心を熱くさせるようなチームを目指し取り組んでいます。ぜひ球場へ足をお運びいただき応援していただければ光栄です。そして、硬式野球部の学生が学内においても模範となる存在、体育会を引っ張って行ける存在、卒業後に社会人となっても活躍できる存在となるよう日々学生と向き合っております。今後もより一層のご支援、応援いただけますようお願い申し上げます。

2004年度法学部法律学科卒業 星 孝典

ゴルフ部

東北学院大学スポーツOB連合会 50周年に寄せて

平素より、当会の活動に対し、多大なるご協力とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。



1964年創部したゴルフ部OB・OGは300名を超え、地元をはじめ全国各地の様々な分野で活躍していることは、私たちの誇りであり、大きな喜びです。

私が大学入学と同時にゴルフ部に入部したのは1970年で、当時「ゴルフはブルジョアのスポーツ」と揶揄される時代でした。しかし、そうした逆風の中だからこそ、緊密な人間関係を築きながら技術力の向上、礼儀作法、そして自己を律する精神力の獲得を目指した4年間でした。ゴルフを通じて得た経験は、豊かな人間形成に大いに役立ち、社会人となってからも多くの先輩や後輩との繋がりを深めることができました。

近年、ゴルフはプロスポーツとしての人気が高まり、老若男女問わず楽しめる国民的スポーツとなっています。また、「メンタルスポーツ」としての側面も注目され、その変遷には驚くばかりです。

2023年4月には、本学の五橋キャンパスが開学し、マスコミでも大きく取り上げられるなど、大きな期待を集めています。新しい環境が、全国からの学生を引き寄せ、ゴルフ部にとっても部員の増加や、さらなる高みを目指す絶好の機会となることを期待しています。

現在、ゴルフ部は男女ともに関東大学リーグ戦Aブロック昇格を目指して活動しております。監督を務める大友富雄氏は、日本アマチュアゴルフ選手権に17回出場し、89年から97年までナショナルチームで活躍した日本を代表するトップアマチュアです。近隣のゴルフ場や多くの先輩方の協力により、充実した練習環境を整えております。OB会としても、これらの恵まれた環境を活かし、優れた人材を社会に送り出すため全力で支援してまいります。引き続き、皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ゴルフ部OB会 会長 小田桐 和久

サッカー部

『TGスポーツOB連合会創立50周年おめでとうございます。』

◎記念祝賀会において、連合会の元会長でもありませんサッカー部OBの「本間良一先輩」が功労章を受けられますこと誠にありがとうございます。後輩としても大変光栄に存じます。

本間先輩は、2015.6月日本サッカーリーグ(JSL)からリーグ立ち上げの功労者として顕彰を受けておられます。

JSLは、現在の日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)でJリーグの親と称されております。

◎(株)ベガルタ仙台庄子春男GM

仙台市出身/本学サッカー部OB/1979年度卒
/1980富士通入社

2011 (株)川崎フロンターレ取締役強化部長

2021~2023 " エグゼクティブマネージャー

2023.6 (株)ベガルタ仙台GM就任

※GMより『地元のJ2ベガルタ仙台をJ1に戻すことを最大の目標に掲げ、中長期的な視点にたち安定したクラブのチーム作りに尽力する。』皆さんでベガルタ仙台を今まで以上に応援しましょう！

◎サッカー部OB会令和7年創部100周年を迎えます。

今までOB会を支えていただいた多くの皆様方に衷心より感謝申し上げます。

お蔭さまで、サッカー部は令和7年創部100周年を迎えます。

「記念祝賀会」等開催すべく1月準備委員会を立ち上げました。

その他、昨年の青山学院大学定期戦は学院高校グラウンドで開催され、青学サッカー部OB会植松会長始め多くのOBの皆さんに応援にお出でいただきました。

また両校のOB参加によるゴルフコンペも開催しました。

◎現役の状況紹介

2023シーズン東北地区大学リーグ6位に沈み、入替戦も経験したが1部残留。

「2023年第7回東北地区大学新人大会」において、全勝で予選を突破、決勝戦ではPK戦で仙台大学に勝利、大会初優勝！東北の代表として「全国大会出場」を果たしました。全国大会出場は、2018総理大臣杯全日本サッカートーナメント・2019全日本大学選手権に続く久々の出場となりました。

今後の、躍進に期待したいと思います。「頑張れ学院！」

サッカー部OB会 会長 武田 均



創部105年を迎えて

TGスポーツOB連合会の創設50周年おめでとうございます。今日の発展まで関わってこられた多くの関係各位に敬意を表する次第です。

さて、我が柔道部は今年で創部105周年を迎えます。遡って大正時代の東北学院時報を見ますと第30号（大正8年5月5日発行）に「学友会の組織」として認められた運動部の中に柔道部があることから、その年を創部年と位置付け現在に至っております。

ちなみに我が柔道部OB会の名称は「南六会」です。かつての地名であった「南六軒丁」から拝借したもので、その由来を知っているOBも年々少なくなってまいりましたが伝統の名称であります。

会員数は物故者も含めて600名を超えておりますが、第一期生は大正11年の卒業となります。大正13年の高専校大会で優勝し、その後も連覇するなど全国に東北学院の名を高めてくれました。当時の試合後の写真に本学創設者のお一人であるD・Bシュネーダー先生や出村悌三郎院長が部員とともに収まっていて伝統を感じるところです。そして昭和に入ってから東北学生柔道優勝大会で昭和33年から昭和53年までの21年間東北地区では敵なしの連続優勝を成し遂げました。その後はスポーツ強化を前面にした新興大学の台頭もあり苦戦する時代もありましたが、平成に入り柔道家憧れの全日本柔道選手権大会に現役学生で初めて出場してくれた田村知之君（平成5年卒）らが勢いをつけてくれ、現総監督の阿部文智君（平成9年卒）らの学生時代には東北を圧倒した6連覇や全日本学生柔道優勝大会ベスト16入りを3年連続で成し遂げてくれて地方学連としての快挙、と全国の先生方から賞賛の声はうれしいものでした。

現況は東北の団体戦で優勝、個人選手権でも全階級入賞の目標を掲げて稽古していますが、圧勝には至っておらず、OB会と指導陣、そして部員との三者の連携により、再生に取り組んでいるところです。

長い伝統の中で創部記念事業として70周年、80周年、90周年、そして100周年時と記念式典の挙行や記念号を発行してまいりました。とりわけ創部70周年時（平成元年）には記念事業として初めて海外遠征を計画し、仙台市と姉妹都市であるフランスのレンヌ市を訪問、ブルターニュ地方柔道連盟との親善試合や合同稽古は新鮮なものでありました。その後、4年に一度ずつ計4回の海外遠征を実施しましたが、当時の学生たちにとって学生時代最高の思い出となったようです。初回の遠征でレンヌ市柔道場の前庭に桜の木を植樹し記念としましたが、今では相当に背丈も伸びて、足元のUniversité Tohoku Gakuinと記されたプレートは今でも健在です。それから30年後の創部100周年時には式典に大西晴樹大学長以下約200名の方々のご参加をいただき一世紀の歩みを盛大に祝した。次第です。

柔道部師範・南六会相談役
高橋富士男（昭和45年法卒）



少林寺拳法部

TGスポーツOB連合会創立50周年、会報「躍動」創立50周年記念特別号の発行、誠にありがとうございます。

また、日頃より少林寺拳法部OB会の活動に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本OB会は卒業生358名（2023年時点）で構成されております。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ここ数年間はOB会・現役生共に思うように活動できない日々が続いておりましたが、2023年8月には4年ぶりにOB総会を対面開催することができました。今後はコロナ以前のように精力的な活動ができるようOB会・現役生共に力を尽くしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

少林寺拳法部OB会会長 岩泉 正人（1979年卒）

OB会近況

①各事業

2020年7月6日～7月20日 2020年度 OB総会（書面開催）

2021年5月29日～6月13日 2021年度OB総会（書面開催）

2023年1月6日～1月31日 2022年度OB総会（書面開催）

2023年8月11日 *山の日 2023年度OB総会（五橋キャンパス・DUCCA仙台駅前店）

②OB会長の交代

2023年度OB会総会において、会長の交代があった。佐々木文彦氏（1969年卒）に代わり、岩泉正人氏（1979年卒）が新会長に就任した。

現役生の活動状況（2023年12月現在）

①現役部員

3年生1名、2年生4名、1年生1名の計6名で活動しております。

②年間スケジュール

5月 仙台市大会、東北学生大会

6月 対北海学園大学総合定期戦

8月 夏季合宿（学生連盟主催/学院大主催）

9月 宮城県大会

10月 仙台市武道まつり
 全国大会（4年ごとに世界大会）

11月 全日本学生大会

12月 東北学生新人大会

③主な戦績（全国大会以上）

- ・2023少林寺拳法世界大会 in TOKYO, Japan
 組演武・一般男子二段の部 第4位 芝田壮・高橋飛翔組
 単独演武・男子級拳士の部 二次予選進出 仲澤拓矢
- ・第57回少林寺拳法全日本学生大会
 単独段外の部 第1位 仲澤拓矢
 組演武男子二段の部 第5位 芝田壮・高橋飛翔組

④目標

全日本学生大会での総合優勝



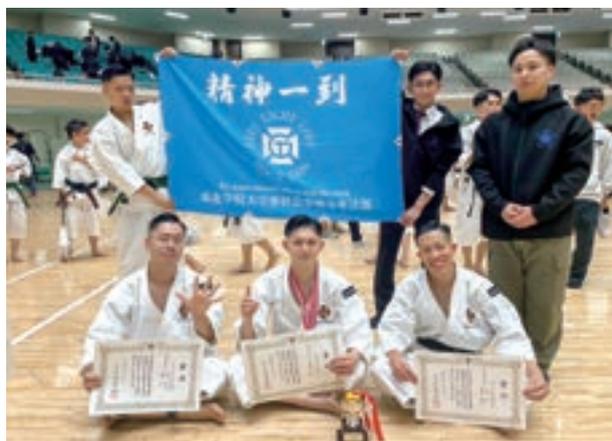
2023OB総会（集合写真）



2023世界大会（左：高橋、右：芝田）



2023OB総会（懇親会①）



2023全日本学生大会（集合写真）



2023OB総会（懇親会②）

水泳部

TGスポーツOB連合会創立50周年に向けて

今から50年前、私も本学に学生でお世話になっていた頃です。経済学部商学科。髪もふさふさで、希望に満ちて学業・部活に毎日充実した生活をしていました。8時半には五橋へ、15時には多賀城のプールへの繰返し。10時には食堂へ行くのですが、礼拝堂の地下にあった食堂と、8番館の前にあったプレハブの食堂がなつかしく思います。部活での大会は、東北各県の大会と、中央での大会は関東インカレに出場しました。

思い出は明治神宮プールでの大会です。総コンクリートづくりで、歩くと足の裏がけずれたものでした。当時はスタートする飛び込み台がなく、高いプールのへりからの飛び込みでした。明治神宮プールは、加山雄三主演の映画「若大将シリーズ」の水泳大会の撮影でも使われた場所で、その時代ながらのいろいろな思い出があります（現在プールはなく、新国立競技場前のホテルに変わりました）。

校舎も変わりました。東日本大震災後、本学も校舎が耐震構造に補強され、ホーイ記念館・五橋新校

舎が完成し、かつて我々の練習場所であったプールは、30年以上前に多賀城校舎から泉校舎に変わりました。嬉しいやら悲しいやらです。また学生の4年間と、卒業後は監督にもなり約20数年、水泳部に携わってまいりました。山あり谷ありでそれぞれの年度での数多くいろいろな経験があり、数多くの思い出があります。今までの人生の内、大学の水泳部との関わりが個人でも数多くのことがなつかしく、とてもうれしく記憶に残ります。今の東北学院大学のことが記事になる創立50周年TG会報の完成が楽しみです。つい隅々まで読んでしまいそうです。これからも発刊関係者の皆さんよろしく願いいたします。卒業生として、いろいろとお知らせいただくことを願っております。

【2023年度 主な成績】

日本学生選手権（インカレ）	OWS競技	
	女子総合	第8位
北部学生選手権	男子総合	優勝（2連覇）
	女子総合	優勝（2連覇）
東北地区大学体育大会	男子総合	優勝（2連覇）
	女子総合	優勝（2連覇）
	体育会水泳部総監督	草刈恵佐雄



スキー部

TGスポーツOB連合会創立50周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

また、体育会のOBの方々による数々の現役支援、学校行事の協力、OB間の交流等、今後益々幅広い活躍を祈念するとともに、我々スキー部OBOG会としても一層のご協力をさせて頂く所存であります。

さて体育会スキー部は創部60年を経て、昨年2月の全日本学生スキー選手権大会（インカレ）で好成績を納め、見事2部に返り咲きました。

実は、一昨年のインカレで転倒者が多く、残念ながら3部に落ちておりました。今回、少数部員で返り咲きを果たせたことは、現役選手の並々ならぬ努力と指導者の適格な指導があつての結果だと思っております。

スキー部の主な活動の頂点がインカレであり、長きに渡り2部を維持し、過去には1部昇格を狙える順位まで躍進したものの、総合力でなかなか上位には食い込めずにおりました。

スキーのインカレの場合、大きく分けてアルペン競技とノルディック競技があり、しかもノルディック競技にはクロスカントリー競技とジャンプ競技があり、一人の選手がこれらの競技を掛け持ちする事は不可能なのです。そうなると、どうしても学校の総合点で争う学校別順位では、各種目の選手がそろっている大学には勝てないのです。そんな中で今回のインカレで2部復帰を果たした事は快挙と言わざるを得ず、大いに称賛に値する出来事でした。

今後の課題としては、1部15校、2部25校、3部25校のなかで、成績を残し続けていくには、現役学生の更なる努力と、次世代の部員獲得の為、高校生へのアプローチを強化していく必要があります。

加えて、昨今のスキー競技の多様化で、昨年にはモーグルの選手が1名入部しました。これらの競技もインカレの種目に加わる日がくることを望むばかりです。

秩父宮杯・秩父宮妃杯

第96回全日本学生スキー選手権大会 結果

男子3部 ○アルペン競技

・ジャイアントスラローム競技

1位 石黒克樹 4位 小嶋健斗

8位 千田 睦

・スラローム競技

2位 株木玖隆

○クロスカントリー競技

・10km クラシカル

1位 岸 益幹

・5kmフリー

2位 岸 益幹

・3×5kmリレー

3位

○学校対抗得点 3位 2部昇格

それでは現役の紹介をします。

主将	小嶋健斗	4年	アルペン	愛知教育大学付属
主務	石黒克樹	4年	アルペン	日本大学山形
	細谷夏奈	4年	アルペン	角館
	千田 睦	2年	アルペン	角館
	株木玖隆	2年	アルペン	日本大学山形
	岸 益幹	2年	クロスカントリー	新庄北
	遊佐眞樹子	1年	マネージャー	古川工業
	吉村明莉	1年	マネージャー	宮城野
	大山琉高	1年	モーグル	富谷



AL 男子 3部 GS 優勝 東北学院大学 石黒 克樹



10kmC 優勝 東北学院大学 岸 益幹

スキューバダイビング部

TGスポーツOB連合会創立50周年まことにめでとうございます。50年の歴史の重みを感じますと共に益々の躍進を祈念いたします。

体育会スキューバダイビング部も44年を迎える事ができました。これもひとえに

故 柴田 誠部長、黒須 憲部長、そして多くのOB、関係者の皆様からのご指導ご支援のおかげと感謝申し上げます。

令和6年3月をもって黒須 憲部長が退職となるため、新たに部長として経済学部経済学科 小林 陽介准教授をお迎えすることになりました。黒須 憲部長まことに有り難うございました。

体育会スキューバダイビング部を振り返れば新入部員も無く部員数10名程度の時期もありましたが現在は48名の部員数となり、毎年多くの新入部員を迎えることが出来るようになりOBとしても嬉しい限りです。

部活動においては、スキューバダイビングを取り巻く環境の変化には目を見張る物があり、その変化に対応していけるように安全を大前提に、ダイビングスキル・知識の向上そして大学時代のよい思い出作りに努めて貰いたいと思います。

記載者 体育会スキューバダイビング部 OB会
会長 菊地 常義

現役学生の活躍状況、現況

現在部員数は48名が在籍しております。2023年のシーズンではコロナ禍以降では初めて通常の年間行事を全て実施することができました。

4月から7月はダイビングライセンスの取得のための学科講習、プール講習、山形県由良海岸での海洋講習を実施。8月にはおよそ1週間の沖縄での夏合宿、集中した期間でダイビングを行うことでスキルの向上を図ることができました。9月には基礎体力向上のためのフリッパー大会を実施し、毎年参加している12月の関東学生潜水連盟フリッパー大会では参加8大学中総合4位の成績を収めました。競技力

では関東の大学にまだまだ劣っていることを痛感しました。今年は昨年以上の成績を目指します。

ダイビングは「自然」と向き合わなければならないスポーツです。

万全の準備をしても予期せぬ事態は起こりません。そのような時に自分には何が出来るのか。何をしなければならないのかを考え、実行できる部員である様、日々の活動に取り組んでいます。

寄稿者 涌澤 和也 (現 監督)

創部40周年祝賀会



2023年夏合宿 in 沖縄 (阿嘉島)



スケート部

東北学院大学 体育会 スケート部

2023年 創部60周年記念式典開催

スケート部は、昭和38年11月に発足以来、創部60周年を迎えました。9月16日、長陵会館に於いて「創部60周年記念式典」が開催され全国各地よりOB・OGが集い現役部員を加えた51名が出席しました。初めに設立代表者である山内浩名誉会長（昭和40年3月卒）が創立当時を振り返り「学生寮にいたメンバーを中心に創部し、第1回河北新報杯定期戦で東北大学に公式戦初勝利した」ことが披露された。来賓として、坂本讓学生部長が出席され、「創部以来、長きにわたり部活動が継続されてきたことは、黒須部長をはじめ監督・コーチといった指導者の皆さんやOB・OGの皆様方の大きな支えによるものと感謝申し上げます。また、2023年4月に五橋キャンパスが開学し、土樋、泉、多賀城のキャンパスを集約し、『文理融合』のワンキャンパスとして東北学院の新しい歴史がスタートしました。ぜひ一度、新しい五橋キャンパスを見学に来てください」との祝辞をいただいた。黒須憲部長からは、「野口和男部長の後任として1999年に部長をお引き受けし25年になります。日本の近代スポーツの発展は大学から始まり、企業スポーツを中心として行われ現在はプロスポーツが盛んです。しかし、経済活動や社会状況に左右されない学生スポーツこそが本来のスポーツのありかただと考えます。競技力だけではなく、知識と教養を身につけ社会のリーダーとして活躍できる人間を育成できるクラブであって欲しいです。今後、百年の益々の発展を祈念し悲願のインカレ上位入賞を目指し活動してもらいたいと思います」との祝辞をいただいた。中締めとして創部当時1年生であった鈴木啓市氏（昭和43年3月卒）より、「60年前は東北大学との定期戦をすることが目標でしたが、現在は東北地区のみならず関東勢とも十分に戦うことが出来るところまでレベルアップしており後輩諸君の今後の活躍に期待したい」との激励の言葉をいただき三本締めでお開きとなった。



盛岡アイスリンクカップ 令和5年7月（アイスホッケー部門）



青山学院大学定期戦 令和5年6月10日 5-11で敗れる



北海学園大学定期戦 令和5年6月23日 28-0で大勝



青山学院大学定期戦
当日参加された応援団・チアリーダー部を含めて全員での記念撮影

卓球部

今年度からOB会会長を任せました昭和59年度卒の清野と申します。

当体育会卓球部は、初代卓球部部长でありました菊田善三先生が、戦後間もない昭和21年、戦災により焼土と化した仙台で、未来への目標を見出すことがままならない学生の状況を危惧し、情熱を傾け共に分かち合う場として卓球部を創設されました。OB会については、昭和37年に設立され、現在は約300名を超える会員がおります。

当OB会は、その目的を達成するために①会員名簿及び会報の刊行、②当卓球部育成のための援助、③菊田杯争奪卓球大会の開催、④当卓球部監督の選出、⑤会員の福利厚生、⑥その他、本会の目的達成に必要な事業を主な事業としています。

本年度は、6月に第34号会報を刊行しました。7月8日には、コロナウィルス感染症が第5類に移行したことに伴い多人数での会食等が社会的にも容認される状況となったため、懇親会を合わせての総会をTKPガーデンシティ仙台において、4年ぶりに開催しました。10月21日は前述した菊田先生のご功績を讃えつくれた菊田杯争奪卓球大会（第61回）が、4年ぶりではあったものの200名を超える参加人数をいただき開催することが出来ました。12月17日には、日中OBOGと現役の交流卓球大会を実施し、同日夜には、同大会の打上げ及び菊田杯の慰労を兼ねた懇親会が、昭和41年卒の先輩を筆頭に多くの諸先輩方の参加をいただき盛大に開催されました。

本年度の事業は概ね成功裏のうちに終わりましたが、人間関係が希薄傾向にあるこのご時世、運営費となるOB会費の納入率をどのように上げていくのか、若手OBOGの参加をどのように増やしていくか等、解決しなければならない課題もありますが、伝統を次の世代に繋ぐため、理事と力を合わせて頑張っているところであります。

卓球部OB会 会長 清野 晃樹

東北学院大学体育会卓球部OB会

昨年度に卒業したOB・OGの主な就職先

- ・青森県警
- ・杜の都信用金庫

OB会の近況

- ・OB総会 2023年7月8日 場所：TKPガーデンシティ仙台
- ・OB会主催 菊田杯争奪卓球大会開催 2023年10月21日 場所：塩釜ガス体育館
- ・OB・OBと現役交流会 2023年12月17日 場所：泉キャンパス体育館

現役部員について

(1) 今年度の戦績

- ・R5.5 東北学生春季リーグ戦 女子2位（インカレ出場）
- ・R5.8 東北学生秋季リーグ戦 男子2位、女子2位
- ・R5.9 東北学生会長杯（新人戦）
男子シングルス3位（2名）、女子シングルス、ダブルス優勝
- ・R5.10 全日本学生選手権個人の部 男子2名、女子6名出場

(2) 新入部員の紹介

- ・伊藤 颯 宮城 古川学園出身
- ・大川 祐樹 青森 東奥学園出身
- ・岡田 陽平 青森 弘前実業出身
- ・土江 慧 島根 松徳学院出身
- ・片見 拓翔 山形 山形工業出身
- ・村上 駿介 青森 弘前実業出身
- ・國分 綾乃 福島 福島東陵出身
- ・佐藤 理枝 山形 山形学院出身
- ・鈴木美夢奈 福島 郡山女子大附属出身

(3) 今年期待の選手

- ・松山俊之介 3年生
- ・田名部 萌 3年生

男女両キャプテンであり、チームの要として益々のチーム力、競技力向上に期待しております。

記載者 監督 工藤 瑠哉

軟式野球部

TGスポーツ連合会設立50周年おめでとうございます。

また日頃より軟式野球部OBOG会の活動に多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

近年の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、軟式野球部OBOG会は、総会などの活動を自粛しておりました。現役部員については、2020年には、活動自粛期間や大会の中止などありましたが代替え大会として秋に開催された、東北地区の1位を決める、第1回大学軟式野球大会東北王座決定戦で優勝を果たした。その後、2022年と2023年と東北王座を連覇し、夏の全日本大学軟式野球選抜大会にも連続出場を果たすなど、コロナ禍を乗り越え、着実に力と地位を勝ち取っています。

今後は、OBOG会の活動を再開させ、軟式野球部と東北学院大学の発展に、微力ながら貢献していきたいと思っております。

今後ともよろしく願いいたします。

今年度現役戦績

- 2023 大学軟式野球東北王座決定トーナメント 優勝
- 2023 全日本大学軟式野球選抜大会出場（長野県）
- 2023 全日本大学軟式野球選手権大会東北地区トーナメント 準優勝
- 2023 全日本大学軟式野球国際親善大会（TAIWAN）日本代表
- 丸田 祐人（経営学科4年）
- 山田 捷人（経済学科2年）





バスケットボール部

TGスポーツOB連合会50周年おめでとうございます。

当部は、平成30年11月10日、創部男子70周年女子50周年の記念祝賀会を盛大に開催いたしました。創部以来、東北の雄として、輝かしい戦績を残してきました。

男子は、昭和53年大会で、インカレ優勝9回、全日本選手権優勝1回の明治大学を破り、大いに注目をされました。翌54年大会では、前年度優勝校で学生日本代表を数多く輩出していた日本大学に息詰まる大接戦を展開し、結果的には53-55の2点差で敗れましたが、東北学院大の躍進が当時大きな話題となりました。平成14年には、関東1位の筑波大を撃破し念願のインカレ第8位入賞を果たし、18年にも8位と躍進しました。

一方女子は、インカレにおいて平成12年4位、翌13年3位、14年8位、23年5位と着実に輝かしい戦績を残し、全国にその名を轟かせてきました。実業団で活躍していた相澤優子氏（現姓：小島女子HC）が当大学に入学し、卓越した能力でチームを牽引しました。その活躍が認められ、2001年ユニバーシアード北京大会に、日本代表主将として選出されております。また、2004年には李相伯杯争奪日韓学生競技大会に、青山景子氏が日本代表として選抜され、活躍しております。

学生東西対抗戦には、稲川龍一氏（故人）、千葉洋一郎氏、鈴木敏久氏が学生オールスターの一員として選出されております。また2002年には、当大学より高橋憲一氏、相澤優子氏、加藤千春氏の3名が選出され、男女とも東軍勝利に貢献しております。

昭和47年から監督として指揮を執ってこられた小藤恭正氏が、各種クリニックに参加したことにより広い人脈ができ、1976年（昭和50年）には、東北学院創立90周年記念事業として韓国漢陽大学を招聘し、日韓親善学生大会が開催されました。

1988年（昭和63年）から、大浪顕正氏の後任として女子の指揮を執っております佐々木桂二監督

は、2002年から1年間米国ペンシルベニア州立大にコーチングの研修に参加し、指導理論を学んで帰国しました。その後も海外との交流は続き、韓国国民大学校、高麗大学などを招いて国際交流試合が行われ、技術の向上を図ってきました。2005年には、創部55周年を記念して、韓国学生選抜を招いて大会を開催しております。その後は、2007年台湾開南大学の招待試合に日本学生連盟推薦により参加し、ベトナムホーチミン大学、アメリカボストン大学（NCAA1部）との交流戦を行い、肌で外国のレベルを感じてきております。こうした体験が、今日の技術向上につながっているものと思います。

ミニバスから社会人まで、OBOGが多数各県において指導者として活躍をしております。また、選手としても多くの方々が、プロはもちろん、国体選抜チームやクラブチーム、実業団・社会人チームの一員として活躍し、東北学院大学の名声を広げております。2023年4月、東北学院中学・高校の校長に就任されました帆足直治氏も、バスケットボール部OBであります。

OBOG会は、半世紀にわたり会長を務めてこられた菊池哲氏が2017年に退任し、石山武新会長の体制がスタートしました。菊池会長は、宮城県バスケットボール協会会長も歴任しており、2017年度公益財団法人日本バスケットボール協会より「功労者表彰」を受賞するなど、当部内外において多大な足跡を残しております。

石山新会長体制では、これまでの組織体制を見直し若手を役員に登用する一方、全国に広がるOBOGをまとめるために東北・北海道各県には2~3名（宮城県は卒業生が多いことから7名）、他は関東広域地区に幹事を任命させていただき、活動を行っております。現役生の試合結果報告や、総会、納会の開催によりOBOG諸氏の連携強化に努めております。コロナ感染症の拡大により、近年は開催を見合わせておりましたが、感染症が5類に移行したこともあり、現在再開の予定で検討を進めております。

コーチ、監督、大学職員として半世紀にわたりバスケットボール部全体を支えてくださった石山仁氏

が、2023年2月ご逝去されました。石山さんの遺志を継ぎ、横の連携を図りながら、更なる発展に努めて参ります。

長い歴史の中には、不遇の時代や、他大学の強化により選手が集まらず苦難の時もありました。しかしながら、各世代の皆さんの努力が、今日の歴史を紡いでおります。『勝利』することが、強く求められがちですが、学生スポーツはそれだけではないものと思料します。勉学はもちろんですが、社会人となる前の組織内での役割分担や、礼

儀、向学心、連帯感など学ぶべきことは多いと思います。スポーツを通じてこれらのことを体験し、将来の自己研鑽の礎にしてくれることを現役生（男子24名：女子15名）には期待いたします。OBOG会（会員数：564名）は、そうした学生の指針となり、良きアドバイザーとして今後も支援して参りたいと思います。

以上

バスケットボール部OBOG会
会長 成田 俊三（昭和60年卒）

大学卒業後、日本リーグやBリーグで活躍した選手



稲川龍一選手
1978（昭和53）年



千葉洋一郎選手
1983（昭和58）年



間橋健生選手
1994（平成6）年



宮本美希選手
1998（平成10）年



相澤優子選手
2002（平成14）年



高橋憲一選手
2003（平成15）年



松田大地選手
2004（平成16）年



青山景子選手
2005（平成17）年



加藤真選手
2005（平成17）年



木村洋人選手
2005（平成17）年



阿部有希子選手
2008（平成20）年



菅野翔太選手
2014（平成26）年

※その他にも実業団で頑張っているOG・OBのメンバーがおります。

ハンドボール部

TGスポーツOB連合会創立50周年に寄せて
輝かしい歴史と、長い伝統を持つ東北学院大学スポーツOB連合会創立50周年を迎えたことに敬意を称します。

本当におめでとうございます。

東北学院大学体育会ハンドボール部の理念は、

【**錬 磨**】(れんま：精神や技術・肉体をきたえ磨くこと。)です。

当部は昭和28年同好会として発足、昭和32年に部に昇格しました。

当時の練習会場は評定河原グラウンドを借りてトレーニングを重ねてきました。昭和38年からは土樋キャンパスの外コート(現在の駐車場)・泉キャンパスが出来てからは泉キャンパス体育館と練習会場を確保してきました。体育館は他のクラブと協力して使用しています。しかし、週1回ぐらいしか使えません。若林や宮城野体育館などを借りて(有料)トレーニングをしています。授業との関係上全員がそれって連携プレー等のチームトレーニングができずにいます。現役のこれが大きな悩みです。

強化するには大学側の深い理解と協力が必要です。1つ目は練習会場となる体育館の確保が最優先にして頂きたい。2つ目はどこの部員でもいつでも利用できる筋トレやウェイトトレーニング場所の確保です。もっと個人・個人の身体づくりで鍛え上げた体格が不可欠です。

現在のスポーツは化学的根拠に基づいて、分析しデータ化して弱点を補い、チームを強化しています。メンタル面強化と大学スポーツがどうあるべきか等、また、モラルの向上を踏まえ教え合うことも重要です。

スポーツを通じて経験したことは社会人になって活かされます。厳しい立場におかれた乗り越える勇気がおのずと湧いてきます。逃げずに正面から問題点に向き合って挑戦することです。

OB会では現役強化の支援となることを期待して、中学生を対象にしたTGジュニアカップを毎年開催しております。この大会はOB会主催で協賛を(株)モルテンで行っています。競技の運営はハンドボール部の現役が担当し、審判の経験等で協力しながらハンドボール競技の勉強の場にしております。

まだ、経験の浅い中学生がハンドボール競技の面白さを体験してもらい、普及と強化を目指しています。今年で第19回となるTGジュニアカップを令和6年2月10日・11日の2日間泉キャンパス体育館に於いて開催いたします。参加校は10チームで岩手からも参加します。参加校の中には本年の全国中学校大会でベスト4に入るチームも出て来ました。また、日本リーグのトップチームで活躍する選手も誕生しています。ようやく蒔いた種が少しずつではありますが実を結びつつあると実感しております。

今後もこのイベントを継続して行くには東北学院大学が東北で常勝し、インカレに出場することは勿論、ベスト4以上を獲得することです。過去には2回のベスト8がありました。関東・関西の1部校を撃破した時期もありました。大学でハンドボールを続けるために関東の強豪校から本学に進む高校生プレイヤーもいました。しかし、現状は東北地方の中学校の強いチームからは東京方面の有名な強豪高校に進学し、その後も関東の大学に進学しており、本学への希望者は少ないのが現状です。スポーツする設備をはじめ環境が整っていないと、高校の先生方から見えるからです。この声は無視できないと思います。

多くの卒業生が東北の企業に職を得て、大企業に育て上げ多大な経済的貢献をしてきた土壤がある本学です。これからの少子化時代に対応して知恵があります。

東北に進出してくる企業によき人材を数多く輩出できる私学の雄【東北学院大学】になって頂きたいです。勉学と共にスポーツを4年やり通し、心身共に鍛え健全な明るい精神を兼ね備えた学生はこれからの役に立ちます。

東北学院大学体育会ハンドボール部OB会
会長 仲嶋 一雄



ロス オリンピックに参加して

フェンシング部

今年3月に卒業したOB・OGの主な就職先

- ・宮城県警察

現役部員について

<今年度の目標>

- ・対青山学院大学定期戦勝ち越し
- ・関東学生フェンシング選手権 個人ベスト32、団体ベスト16
- ・全国学生フェンシング選手権 個人決勝トーナメント進出 団体1回戦突破
- ・JOCジュニア・オリンピック・カップ ベスト32
- ・仙台市エペ・サーブル・フルーレ杯 ベスト4

<新入部員>

【男子】

中田 奈津樹

学 科：法学部法律学科

出身校：仙台大

種 目：エペ・フルーレ

笠原 琉希

学 科：人間学部心理行動科学科

出身校：仙台大

種 目：エペ・フルーレ

田中 丞一

学 科：経営学部経営学科

出身校：仙台城南高校

種 目：フルーレ

寺澤 幸佑

学 科：文学部歴史学科

出身校：宇都宮南高校

種 目：エペ・フルーレ

【女子】

赤津 恵理

学 科：人間学部心理行動科学科

出身校：仙台高校

種 目：エペ

戸嶋 希望

学 科：情報学部データサイエンス学科

出身校：横手高校

種 目：フルーレ



1段目左から
田中 丞一 寺澤 幸佑 中田奈津樹 笠原 琉希 伊藤 天翔 加藤 玲乃 前河 佑澄
2段目左から
小野寺健太 安 優人 本間 英太

ボクシング部

この度は、TGスポーツOB連合会創立50周年、誠におめでとうございます。

変わりゆく時代の中で、50年にわたりTGスポーツの振興発展と会員相互の結束を固めた多岐にわたる支援を継続して来られた活動は、歴代の会長はじめ関係各位の皆様のためめぬ努力の賜物と拝察し、心から敬意を表します。

お陰様をもちまして、我がボクシング部も今年で創部70周年を迎える事ができました。日頃よりTGスポーツOB連合会のご支援ご協力に改めて厚く御礼申し上げます。

さて、令和5年度のボクシング部の活動は、北海学園大学及び青山学院大学定期戦をはじめ、東北地区大学トーナメント大会（春季・秋季）の他、特別国体鹿児島大会出場に向け、宮城県代表として成年男子5階級中3名の選手を輩出し、東北総合体育大会に出場を果たすことができました。残念ながら優勝を逃しましたが、準優勝2名、3位1名と入賞し、次年度につながる成果をあげることができました。ボクシング競技は昨今では女子もオリンピックをはじめ全国大会が開催されております。部としては男子部員だけではなく、女子部員獲得にも力を入れ、又、学業との両立と社会に巣立つ人格形成の場としてOB会として更なる支援をはかっていきたいと考えております。

東北学院大学体育会ボクシング部OB会
会長 小野 潔

令和5年度の現役学生の活動状況

5/13/14 第36回宮城県ボクシング選手権大会

ライトフライ級：佐藤太陽（4年）優勝

ライト級：酒井優太（3年）優勝

ライトウェルター級：高橋秀（2年）優勝

ウェルター級：結城輝英（1年）優勝

6/24 第69回北海学園大学定期戦

2勝0敗 勝利

7/16 第48回東北地区大学春季トーナメント大会

学校対抗 1位

フライ級：三澤正和（3年）優勝

バンタム級：伊藤音真（3年）優勝

ライトウェルター級：高橋秀（2年）優勝

ウェルター級：結城輝英（1年）優勝

8/25～27 第50回東北総合体育大会兼特別国民
体育大会東北ブロック大会

ライト級：酒井優太（3年）準優勝

ライトウェルター級：高橋秀（2年）3位

ウェルター級：結城輝英（1年）準優勝

10/29 第28回東北地区大学秋季トーナメント
大会 学校対抗：1位

フライ級：三澤正和（3年）優勝

ライト級：武田義之（4年）優勝

ライトウェルター級：結城輝英（1年）準優勝

12/16 第74回青山学院大学定期戦
6勝3敗 勝利

東北学院大学体育会ボクシング部
監督 江川 純



対北海学園大学定期戦



東北総合体育大会ボクシング競技会



対青山学院大学定期戦

ヨット部

創立50周年おめでとうございます。

我々ヨット部OB会は発足以来変わらず、現役学生の後方支援を中心に活動を行っております。

昨今のコロナの影響により、対面での活動を控えておりましたが、今年に入ってから対面での幹事会の開催や4年ぶりのOB総会の開催など、少しずつですが活動の幅を広げております。

現役学生とOBとが交流できるOBヨットレースの開催も予定しておりましたが、天候不良により残念ながら中止になりました。しかしながら来年度の開催を希望する声が多く計画を進めております。

今年度の春に開催された青山学院との定期戦では、多数のOBが現地に駆けつけ、両校のOB同士で久しぶりの交流が実現できました。

昨年度は現役学生の新艇購入のためOBの皆様方から寄付を募り現役学生へ贈呈。学生課様からの支援と合わせて念願の新艇購入ができたことも記憶に新しいことでございます。

令和6年度を迎えるにあたり、引き続き現役学生にどのような后方支援ができるか?を最優先に考え、気持ちを新たに今後も邁進していきたいと考えております。

現役学生は4年生が引退して3年生以下の少人数での活動しておりますが、現役達は先輩を追い越そうと日々練習に励んでおります。とても向上心が強く成長も著しいことから、今後の活躍が期待できます。

今年度は青山学院定期戦の勝利に始まり、東北地区予選を突破。「全日本学生ヨット個人選手権」への出場と、社会人やオリンピックが出場する「全日本470級ヨット選手権大会」へ出場しました。団体戦では惜しくも2位という結果でしたが、これらの経験を踏まえ、来年度はさらに良い成績を収めるべく鍛錬を重ねております。

これも大学関係者の皆様やTGスポーツOB連合会の皆様のお力添えがあってこそその活動であること

を肝に銘じ、東北学院の名に恥じぬよう精進していきたいと考えております。

東北学院大学体育会ヨット部OB会
事務局 木村 公英



OB総会の時に五橋キャンパスを見学



大会の時の出艇の1コマ

ラグビー部

東北学院大学TGラグークラブ（OB会）及び東北学院大学ラグビー部近況

我がラグビー部については、昭和6年の設立以来90年の歴史と伝統に守られ、東北・北海道の雄として現在に至っております。東北学院大学TGラグークラブ（OB会）は、OBの結束と現役学生への支援を最大の目標に活動を行っております。

昨年度から、今年度にかけて新型コロナウイルス感染対応が落ち着き、対面での活動が増えてまいりました。以下、東北学院大学TGラグークラブ及び東北学院大学ラグビー部の主な近況を報告させていただきます。

1. OB会の活動状況

- ①2022年6月 現役部員及びチームへ創部90周年記念Tシャツと記念ボールを贈呈



記念Tシャツを着用する現役部員 チームへ記念ボールを贈呈

- ②2022年10月 第1回北日本大学ラグビーフットボール交流戦（札幌）応援



月寒ラグビー場（札幌市）応援受付所 菊地OB会長 工藤前OB会長 平野北海道支部長

- ③2023年3月 現役・OB戦の実施



泉キャンパスラグビー場での現役・OB親善試合 アフターマッチファンクション

2. 現役学生の活躍状況及び現況

【2022年度】

- 第1回北日本大学ラグビーフットボール交流戦出場
（全国大学ラグビーフットボール選手権大会代表決定戦）
東北地区第2代表として出場
- 東北地区大学ラグビーリーグ1部 2位

【2023年度】

- 東北地区大学ラグビーリーグ1部 3位
- 夏季強化合宿（福島県）
- 青山学院大学ラグビー定期戦
東北学院大学TGラグークラブ副幹事長
東北学院大学ラグビー部副部長
山田 純（平成6年卒）



2023年6月青山学院大学ラグビー定期戦及びアフターマッチファンクション 於：宮城県サッカー場



2023年8月筑波大学遠征 於：筑波大学



2023年8月夏季強化合宿 於：J-Village

陸上競技部

体育会陸上競技部の活動報告

TGスポーツOB連合会設立50年おめでとうございます。

これまでのご支援に感謝申し上げます。

体育会陸上競技部も令和6年で創部106年を迎えました。私も創部100年目の10月より監督を引き受け6年目に入っています。

現在の活動状況につきまして、部員数66名(男女)で凍えるような真冬の日も、猛暑の中でも、お互いに励まし合い、自己ベスト、全国大会への出場を目標に練習に励んでいます。

陸上競技は短距離、中距離、長距離、競歩、跳躍、投擲、混成の個人競技で約20種目、その他短距離のリレー、長距離の駅伝の団体種目があり、各スポーツの集合競技です。

2023年の主な成績は、6月に行われました第76回東北学生陸上競技対校選手権大会(東北インカレ)で3種目の優勝と男子トラック部門で3位入賞の結果でした。また長距離ブロックが東北地区予選会に勝利し、秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会に13大会ぶり17回目の出場を果たしました。これには大学がビックニュースとして取り上げていただき、大西学長、原田理事長をはじめ多

くの大学関係者、応援団が伊勢神宮まで駆けつけていただき、声援をおくって頂きました。選手たちは感謝の気持ちを胸に伊勢路を駆け抜けましたが、結果は、途中棄権となってしまいました。この悔しさと、経験を今年以降の大会に活かしていきたいと思っています。

これからの目標は、東北学生陸上競技対校選手権大会の男子総合優勝、女子総合3位、全日本大学駅伝対校選手権大会の連続出場と上位成績になります。今後ともお支援を宜しくお願い申し上げます。

監督 北目 秀哉



第55回全日本大学駅伝対校選手権大会の集合写真



第76回東北学生陸上選手権大会の集合写真

レスリング部

「TGスポーツOB連合会創設50周年にあたって」

TGスポーツOB連合会創設50周年を向かえるにあたり、一言お祝い方ご挨拶を申し上げます。

先々代のOB会長より伝え聞くとことによれば、昭和46年（1971年）の春、全国的な大学紛争が本大学にも波及し、学内が非常事態宣言のもと、教職員の支援のため、母校を思う体育会出身の同窓生有志が学内警備体制を組織したことから、翌年昭和47年（1972年）に献身奉仕した有志の会から自然発議のもとに「TG春秋会」という名称で懇親会として発足したのが、TGスポーツOB連合会の始まりであったと伝え聞いております。

当時は、我が部のOBも我先にと母校に馳せ参じ、昼夜を問わず、母校愛に燃え、警備活動に従事し、他部のOBと共に尽力したとのこと。発足当初の熱い思いと強い団結力を今後も継承いただくことを節に祈る次第です。

この度の創設50周年記念事業に尽力された役員の皆様の労苦に敬意を表するとともに、これを機会に今後とも各部の結束が高まりますよう期待しております。また、在学中の各部現役諸君に対しても一言お願いがございます。在学中、日々の激しく苦しいトレーニングを通して人間性を養い、健全にして頑健な体づくりに精進することは、偏えに将来の社会人として貢献できる人材への成長を促し、卒業後の豊かな人生を歩むためにも必要な修練の一つであると考えます。

皆さんの努力が、その姿が我々体育会出身者にとって何よりの励みにもなります。どうか各部OB、またOB会の意をお汲みとり下さいまして、日々精進を重ね、今後とも東北学院大学体育会の名声を輝かせつづけていただきたいと節に祈るものです。

さて、我が東北学院大学体育会レスリング部も部の存続も危ぶまれる少数精鋭での活動状況に変わりはありませんが、創部以来、大学側、諸先輩方の激励をいただき或いは宮城県レスリング協会等の関係各位、体育会各部の積極的なご協力と温かいご指導、

ご支援をいただきながら活動を続けております。今年、私どもOB会は新たな結束と現役諸君との絆の更なる強化を目的に、コーチ陣に大泉祐コーチ（平9経経卒）・後藤大河コーチ（平31経経卒）を迎え、宮城県レスリング協会や関係団体等とも連携し、引きつづき現役学生を支える諸活動を続けていくところであります。

新体制について

部長：伊鹿倉 正司 副部長：早坂 友行
監督：後藤 大地
コーチ：佐藤 義人、(新任) 大泉 祐、(新任) 後藤 大河

OB会の近況について

活躍のOB

- ・2020年全日本社会人レスリング選手権大会マスタースターズB
フリースタイル70kg級準優勝 大泉祐（平9経経卒）

現役部員について

- ・東京都知事杯令和5年度 東日本学生レスリングリーグ戦
学連選抜チームとして2部リーグ出場し優勝。
2部リーグ最優秀選手賞 佐藤 冬唯（4年）

その他

不定期ですが社会人のレスリング愛好者（他校OBや経験者を問わず）を対象とした練習会を開催しておりますので、ご参加等をご希望の方は「東北学院大学体育会レスリング部公式サイト」(<https://www.tguwrestling.jp/>)の「問い合わせ」(フォーム)にてご連絡ください。

レスリング部OB会会長
佐藤 千明（昭和59年経経卒）



▲東日本学生レスリングリーグ戦学連選抜チーム（本学からは3名出場）

ワンダーフォーゲル部

OB会の近況

ワンダーフォーゲル部の夢であった山小屋が宮城蔵王の倉石山麓に建設され現役部員の活動拠点としてまた、多くのOB・OGにも幅広く活用されてきた「倉石ヒュッテ」も完成から50年が経過しました。

令和5年10月14日（土）ホテルグランテラス仙台国分町において「倉石ヒュッテ建設50周年記念祝賀会」がOB・OG、現役部員含め95名参加のもと開催されました。

開会挨拶、物故者黙祷に続き、阿部豊淳OB会会長から主催者挨拶の後、来賓の坂本譲学生部部長、志子田光雄3代目部長先生より御祝辞を頂き、乾杯は村野井仁副学長（ワンダーフォーゲル部部長）のご発声で祝宴となりました。

「倉石ヒュッテ50年の歩み」記念DVD放映や各年代からのスピーチ、現役紹介の後、全員でTGWV部歌・校歌斉唱。

鈴木繁雄OB会監査役からの中締めで閉会となりました。



50年前の倉石ヒュッテ



TGWV倉石ヒュッテ50周年式典

現役部員について

部員数23名（男子18名、女子5名）

4年生7名、3年生3名、2年生8名、1年生5名

1次訓練合宿：6月上旬（大東岳～南面白山）

2次訓練合宿：7月上旬（蔵王連峰縦走）

夏合宿：8月下旬（北アルプス、高天原温泉～槍ヶ岳）

秋合宿：10月上旬（朝日連峰）

青山定期戦：10月中旬（倉石ヒュッテ）

ワンダーフォーゲル部OB 記事者 浅野 辰之



リーダー養成合宿（船形山）



第1次訓練合宿（大東岳）



第2次訓練合宿（蔵王連峰）



夏合宿（槍ヶ岳）



秋合宿（朝日連峰）



倉石ヒュッテ

勲功章受賞者一覧（1973年～2022年）

- 第 1 号 板橋 三恵子（卓球部）日本代表選手として北朝鮮遠征
- 第 2 号 八島 信男（準硬式野球部）日本代表選手として韓国遠征
- 第 3 号 佐藤 鼎肆（卓球部OB）日本代表（監督）としてネパール遠征
- 第 4 号 坊屋舗 俊二（卓球部）日本代表選手としてインド遠征
- 第 5 号 少林寺拳法部 全日本大会優勝
- 第 6 号 剣道部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第 7 号 佐藤 正（自転車競技部OB）日本代表選手としてカナダ遠征
- 第 8 号 森 俊博（空手道部OB）全日本大会優勝・日本代表選手としてアメリカ遠征
- 第 9 号 準硬式野球部 全日本大会準優勝
- 第 10 号 ボート部 全日本大会準優勝
- 第 11 号 伊里山 豊（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第 12 号 剣道部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第 13 号 ライフル射撃部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第 14 号 山岳部 中部日高山脈完全踏破の偉業
- 第 15 号 ボウリング部 全日本大会優勝
- 第 16 号 千葉 史信（ハンドボール部）日本代表選手としてポーランド遠征
- 第 17 号 山口 伸一（ボウリング部）全日本大会優勝
- 第 18 号 佐々木 信男（ハンドボール部）日本代表選手として韓国遠征
- 第 19 号 荒井 和弘（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第 20 号 草野 昌治（洋弓部）全日本大会優勝
- 第 21 号 森 俊博（空手道部OB）全日本大会優勝
- 第 22 号 伊里山 豊（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第 23 号 ボート部 全日本大会優勝
- 第 24 号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代

- 表選手としてタイ遠征
- 第 25 号 坂本 勉（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第 26 号 準硬式野球部 全日本大会準優勝
- 第 27 号 荒井 和弘（自転車競技部OB）全日本大会優勝
- 第 28 号 ライフル射撃部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第 29 号 弓道部 全日本大会準優勝
- 第 30 号 須藤 知樹（準硬式野球部）日本代表選手としてブラジル遠征
- 第 31 号 野村 康一（準硬式野球部）日本代表選手としてフィリピン遠征
- 第 32 号 武田 みゆき（ライフル射撃部）日本代表選手としてフィリピン遠征
- 第 33 号 森 俊博（空手道部OB）全日本大会優勝・日本代表選手として世界選手権大会優勝（西ドイツ）
- 第 34 号 佐藤 裕治（空手道部OB）日本代表（審判員）として西ドイツ遠征
- 第 35 号 山本 孝章（柔道部）全日本大会準優勝・日本代表選手として中華人民共和国に遠征
- 第 36 号 青砥 信行・鹿島 裕幸（ボウリング部）全日本大会準優勝
- 第 37 号 ライフル射撃部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第 38 号 高橋 輝光（柔道部OB）日本代表（コーチ）として中華人民共和国遠征
- 第 39 号 大槻 善則・二階堂 哲（少林寺拳法部OB）全日本大会優勝
- 第 40 号 関口 憲三（準硬式野球部OB）日本代表（役員）としてフィリピン遠征
- 第 41 号 空手道部 全日本大会準優勝
- 第 42 号 柔道部 全日本大会（キリスト）準優勝
- 第 43 号 準硬式野球部 全日本大会準優勝
- 第 44 号 荒谷 一善（自転車競技部）全日本大会優勝

- 第45号 渡辺 和子・鈴木 弘子（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第46号 大槻 善則・鈴木 賢一（少林寺拳法部OB）全日本大会優勝
- 第47号 ライフル射撃部 全日本大会（キリスト）準優勝
- 第48号 佐々木 信男（ハンドボール部OB）日本代表選手としてフランス遠征
- 第49号 森 俊博（空手道部OB）日本代表選手としてインドネシア遠征
- 第50号 斉藤 浩（自転車競技部）日本代表選手としてアジア大会優勝（タイ）
- 第51号 栗林 実（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第52号 森 俊博（空手道部OB）全日本大会準優勝
- 第53号 辻 浩司・西塚 治（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第54号 庄子 孝夫・橋浦 亨（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第55号 大友 富雄（ゴルフ部OB）全日本大会優勝
- 第56号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（コーチ）としてタイ遠征
- 第57号 武田 みゆき（ライフル射撃部OG）日本代表選手としてインド遠征
- 第58号 菅原 博・相沢 三郎・菊地 浩二（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第59号 ボウリング部 全日本大会（女子）優勝
- 第60号 山岳部 ネパールヒマラヤ遠征隊のチュルー西峰登頂成功
- 第61号 角田 正人（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第62号 遠藤 英信（準硬式野球部）日本代表選手としてブラジル遠征
- 第63号 高橋 伸（準硬式野球部）日本代表選手としてブラジル遠征
- 第64号 林 辰憲（準硬式野球部OB）日本代表（コーチ）としてブラジル遠征
- 第65号 西塚 治・辻 浩司（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第66号 斉藤 光（ライフル射撃部）日本代表選手としてインドネシア遠征
- 第67号 大沼 哲（レスリング部OB）日本代表（コーチ）としてアメリカ遠征
- 第68号 三浦 靖（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第69号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（コーチ）としてニュージーランド遠征
- 第70号 佐藤 裕治（空手道部OB）日本代表（審判員）としてエジプト遠征
- 第71号 森 俊博（空手道部OB）日本代表選手としてエジプト遠征
- 第72号 ボウリング部 全日本大会（女子）準優勝
- 第73号 佐々木 信男（ハンドボール部OB）日本代表選手としてロサンゼルスオリンピック出場
- 第74号 三浦 靖（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第75号 辻 浩司・西塚 治（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第76号 倉本 司・鎌田 清（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第77号 菊地 浩二・相沢 三郎（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第78号 境 美也子（少林寺拳法部OG）全日本大会（女子）優勝
- 第79号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（監督）としてオーストラリア遠征
- 第80号 辻 浩司・泉 雅樹（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第81号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（コーチ）として中華人民共和国遠征
- 第82号 大友 富雄（ゴルフ部OB）全日本大会準優勝
- 第83号 菊地 浩二・相沢 三郎（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第84号 真山 和典・高橋 英憲（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第85号 境 美也子（少林寺拳法部OG）国際親善大会（女子）優勝

- 第86号 ライフル射撃部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第87号 フェンシング部 全日本大会優勝
- 第88号 ボウリング部 全日本大会準優勝
- 第89号 荒井 和弘(自転車競技部OB) 日本代表(監督)として香港遠征・アジア大会日本代表(コーチ)として韓国遠征
- 第90号 早坂 忠勝・泉 雅樹(自転車競技部) 全日本大会優勝
- 第91号 白坂 成子(自転車競技部) 全日本大会(女子)準優勝
- 第92号 大友 富雄(ゴルフ部OB) アジア大会日本代表選手として韓国遠征(銀メダル獲得)
- 第93号 剣道部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第94号 山田 敏雄・志小田 美弘・大久保 主計(山岳部OB) ヒマラヤ山脈チョー・アウイ峰(7,354M)の登頂成功
- 第95号 遠藤 勝則・高橋 英憲(少林寺拳法部) 全日本大会準優勝
- 第96号 ライフル射撃部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第97号 大野 直志(自転車競技部) 全日本大会優勝
- 第98号 井出 和明(自転車競技部) 全日本大会準優勝
- 第99号 ラグビー部 全日本大会(地区大学対抗)準優勝
- 第100号 桜井 直之(ボディビル部) 全日本大会優勝
- 第101号 白坂 成子(自転車競技部) 全日本大会(女子)優勝
- 第102号 柔道部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第103号 準硬式野球部 全日本大会準優勝
- 第104号 泉 雅樹・長井 善幸(自転車競技部) 全日本大会準優勝
- 第105号 大野 直志(自転車競技部) 全日本大会準優勝・優勝
- 第106号 荒井 和弘(自転車競技部OB)'87国際自転車競技大会日本代表(コーチ)として出場
- 第107号 梅津 七枝・鈴木 かおり(少林寺拳法部) 全日本大会優勝
- 第108号 榊原 典美・岡崎 るり子(少林寺拳法部) 全日本大会(女子)準優勝
- 第109号 松本 勝行(バスケットボール部OB) 日本代表(トレーナー)としてアメリカ遠征・アジア大会日本代表(トレーナー)としてタイ遠征
- 第110号 早坂 まゆみ(卓球部) 日本代表選手として日韓対抗戦に出場
- 第111号 ライフル射撃部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第112号 横田 光紀(フェンシング部) 全日本大会準優勝
- 第113号 小藤 恭正(バスケットボール部OB) 日本代表(コーチ)として日韓親善・全米大学公式戦に出場
- 第114号 高橋 輝光(柔道部OB) 日本代表(監督)として国際大会に出場
- 第115号 高橋 輝光(柔道部OB) 日本代表(団長)としてチェコ遠征
- 第116号 遊佐 繁一(スキー部OB) 全日本大会準優勝
- 第117号 白坂 成子(自転車競技部) 全日本大会(女子)優勝
- 第118号 大野 直志(自転車競技部) 全日本大会優勝
- 第119号 自転車競技部 全日本大会総合準優勝
- 第120号 沼田 雄一(自転車競技部) 全日本大会優勝
- 第121号 柔道部 全日本大会(キリスト)優勝
- 第122号 坂本 陽一(自転車競技部OB) 日本代表(役員)として世界選手権に出場
- 第123号 小野寺 政弘・鈴木 和昌(ヨット部) 全日本大会準優勝
- 第124号 荒井 和弘(自転車競技部OB) オリンピックソウル大会日本代表(コーチ)として出場
- 第125号 大友 富雄(ゴルフ部OB) 全日本大会

- 優勝
- 第126号 渋谷 隆（準硬式野球部OB）日本代表（役員）としてブラジル遠征
- 第127号 斉藤 貴昭・山本 勝弘（準硬式野球部）日本代表選手としてブラジル遠征
- 第128号 バスケットボール部 国際大会日本代表チームとしてタイ遠征
- 第129号 ラグビー部 全日本大会（地区大学対抗）準優勝
- 第130号 三浦 大輔（ボディビル部）全日本大会優勝
- 第131号 荒井 和弘（自転車競技部OB）世界選手権大会日本代表（コーチ）としてフランス遠征
- 第132号 大野 直志（自転車競技部OB）世界選手権大会日本代表選手としてフランス遠征
- 第133号 沼田 雄一（自転車競技部）全日本大会優勝・アジア選手権大会日本代表選手として出場
- 第134号 長井 善幸・恩田 克己（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第135号 石川 由美子・富樫 靖子（少林寺拳法部）全日本大会優勝
- 第136号 岡崎 るり子・成田 良子（少林寺拳法部）全日本大会準優勝
- 第137号 大友 富雄（ゴルフ部OB）日本代表選手としてベネズエラ遠征
- 第138号 ラグビー部 全日本大会（地区大学対抗）準優勝
- 第139号 ワンダーフォーゲル部 台湾遠征について創部35周年記念韓国遠征ワンデリングを成功
- 第140号 渡辺 淳浩（スキー部OB）日本代表（アルペンコーチ）として第2回アジア冬季大会に出場
- 第141号 フェンシング部 全日本大会（サーブル団体）準優勝
- 第142号 大河内 鉄也（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第143号 恩田 克己（自転車競技部）全日本大会

- 優勝
- 第144号 沼田 雄一（自転車競技部）日本代表選手として世界選手権大会出場
- 第145号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（コーチ）として世界選手権大会・第11回アジア競技大会出場
- 第146号 林 香里（陸上競技部OG）日本代表選手として第11回アジア競技大会に出場
- 第147号 大野 直志（自転車競技部OB）日本代表選手として世界選手権大会出場・国民体育大会優勝
- 第148号 八森 秀明（自転車競技部）全日本大会優勝
- 第149号 ライフル射撃部 全日本大会（キリスト）優勝
- 第150号 高橋 富士男（柔道部OB）国際交流基金派遣柔道使節団団長としてモロッコ・ギニア遠征
- 第151号 村松 由一（アメリカンフットボール部）日本学生選抜選手として日米交流戦に出場
- 第152号 山岳部 ネパール東北部アイランド・ピーク（6,189M）の登頂成功
- 第153号 稲川 龍一（バスケットボール部OB）全日本総合選手権大会2年連続優勝チームのコーチとしての指導力の評価
- 第154号 ラグビー部 全日本大会（地区大学対抗）優勝
- 第155号 工藤 哲男（ラグビー部OB）1973年からラグビー部監督として部の指導育成に尽力、特に全日本大会において優勝に導くなどその指導力が高く評価される。
- 第156号 大河内 鉄也（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第157号 恩田 克己（自転車競技部）全日本大会準優勝
- 第158号 荒井 和弘（自転車競技部OB）日本代表（コーチ）として世界選手権大会出場
- 第159号 高橋 禮伸（ボート部）全日本大会（シングルスカル）優勝

- 第160号 大野 直志 (自転車競技部OB) 全日本大会優勝・準優勝、国民体育大会優勝
- 第161号 松野 寿美恵 (ライフル射撃部) 国民体育大会 (エアライフル青年女子立射20発) 優勝
- 第162号 阿部 二三男 (少林寺拳法部OB) 全日本大会優勝
- 第163号 山形 又右衛門 (軟式庭野球部OB) 1991年度体育功労者として文部大臣表彰
- 第164号 阿部 千寿歌 (ボディビル部) 全日本大会優勝・58Kg級スクワット148.5Kg日本新記録、ジュニア新記録樹立
- 第165号 渡辺 淳浩 (スキー部OB) アルペールビル冬季オリンピック日本代表 (アルペンコーチ) として出場
- 第166号 松戸 思奈 (水泳部) バルセロナオリンピック・アジア選手権大会日本代表選手として出場、全日本大会100M・200M自由形準優勝、国民体育大会100M自由形準優勝
- 第167号 荒井 和弘 (自転車競技部OB) バルセロナオリンピック日本代表 (コーチ) として出場
- 第168号 阿部 千寿歌 (ボディビル部) 世界ジュニア選手権大会・アジア選手権大会52kg級日本代表選手として出場 (スクワット記録140Kg世界ジュニア新記録)、全日本大会優勝 (記録トータル357.5Kg日本ジュニア新記録)
- 第169号 大野 直志 (自転車競技部OB) 国民体育大会優勝
- 第170号 片岡 雅喜 (少林寺拳法部) 全日本大会優勝
- 第171号 鎌田 貴之 (少林寺拳法部) 全日本大会優勝
- 第172号 渡辺 美徳 (ライフル射撃部) 全日本大会 (スモールボアライフル三姿勢60発個人) 優勝
- 第173号 ライフル射撃部 全日本大会 (キリスト) 優勝
- 第174号 ラグビー部 全日本大会 (地区大学対抗) 準優勝
- 第175号 岡 大門 (サッカー部OB) 本会発足時 (1973年) から副会長に就任、その後1983年第2代会長に就任。1993年に退任されるまで20年にわたり会の隆盛発展に尽力
- 第176号 阿部 千寿歌 (ボディビル部OG) 全日本大会優勝 (記録トータル362.5Kgジュニア世界新記録)
- 第177号 大野 直志 (自転車競技部OB) ワールドカップ日本代表選手として出場
- 第178号 松戸 思奈 (水泳部) 全日本大会100M自由形優勝・50M自由形準優勝、国民体育大会100M自由形優勝
- 第179号 菊池 潤一 (自転車競技部) 全日本大会優勝
- 第180号 山下 公仁 (ボディビル部) 全日本大会準優勝
- 第181号 ライフル射撃部 全日本大会 (キリスト) 優勝
- 第182号 弓道部 全日本大会 (女子) 優勝
- 第183号 森 愛子 (弓道部) 全日本大会 (女子) 最優秀選手賞
- 第184号 菅原 真紀 (弓道部) 全日本大会 (女子) 優秀選手賞
- 第185号 佐藤 正好 (弓道部OB) 1979年4月から弓道部監督として部の指導育成に尽力、特に全国大会において団体優勝に導くなどその指導力は高く評価される
- 第186号 ラグビー部 全日本大会 (地区大学対抗) 優勝
- 第187号 永沼 隆一 (バレーボール部) イラン国際大会日本学生選抜選手として出場
- 第188号 フェンシング部 全日本大会 (フルール団体) 準優勝
- 第189号 菊池 潤一 (自転車競技部) 全日本大会優勝・準優勝
- 第190号 庄司 浩 (自転車競技部) 全日本大会優勝

- 第191号 柔道部 全日本大会（キリスト）優勝
 第192号 弓道部 全日本大会（女子）準優勝
 第193号 ラグビー部 中国大学生レスカンカップ
 国際大会優勝
 第194号 大野 直志（自転車競技部OB）国民体
 育大会優勝、全日本大会優勝、全国都道
 府県対抗優勝、ツールド・北海道個人総
 合優勝
 第195号 亘 浩二（ボート部）全日本大会（選抜）
 男子シングルスカル優勝
 第196号 庄司 忠史（ヨット部）全日本大会（ス
 ナイプ級）優勝
 第197号 熊谷 俊彦（ヨット部）全日本大会（ス
 ナイプ級）優勝
 第198号 大友 宏之（航空部OB）世界選手権大
 会日本代表（監督）としてニュージーラ
 ンドに遠征
 第199号 中野 信朗（スキー部OB）ユニバシアード
 冬季大会日本代表（アルペンスキー競
 技コーチ）として出場
 第200号 斉藤 岳史（航空部）全日本大会優勝
 第201号 安倍 光華（剣道部）全日本大会（キリ
 スト）個人戦優勝
 第202号 安達 元貴（柔道部）フランスジュニア
 国際柔道大会日本代表選手として出場
 第203号 柔道部 全日本大会（キリスト）優勝
 第203号 柔道部 全日本大会（キリスト）優勝
 第204号 大野 直志（自転車競技部OB）全日本
 大会・国民体育大会優勝
 第205号 菊池 潤一（自転車競技部）日韓親善交
 歓競技大会日本代表選手として出場・全
 日本大会優勝
 第206号 白木 正彦（自転車競技部）日韓親善交
 歓競技大会日本代表選手として出場・全
 日本大会優勝
 第207号 庄司 浩（自転車競技部）国民体育大会
 優勝
 第208号 佐藤 正（自転車競技部OB）日韓親善
 交歓競技大会日本代表（コーチ）として
 出場
 第209号 福原 俊哉（少林寺拳法部）全日本大会
 優勝
 第210号 山口 雄士（少林寺拳法部）全日本大会
 優勝
 第211号 弓道部 全日本大会（女子）準優勝
 第212号 石塚 久恵（弓道部）全日本大会（女子）
 優秀選手賞
 第213号 熊谷 俊彦（ヨット部）日米親善大会日
 本代表選手として出場
 第214号 鈴木 勝彦（ヨット部）日米親善大会日
 本代表選手として出場
 第215号 国定 成世（軟式野球部）全日本大学選
 抜台湾親善大会日本代表選手として出場
 第216号 八島 康治（準硬式野球部OB）全日本
 大学選抜台湾親善大会日本代表監督とし
 て出場
 第217号 牧島 裕史（軟式野球部）全日本大学選
 抜台湾親善大会日本代表（役員）として
 出場
 第218号 狩野 浩（軟式野球部）全日本大学選抜
 台湾親善大会日本代表（役員）として
 出場
 第219号 山口 力（準硬式野球部）ブラジル遠征
 全日本選抜選手団選手として出場
 第220号 関口 憲三（準硬式野球部OB）ブラジ
 ル遠征全日本選抜選手団団長として出場
 第221号 林 辰憲（準硬式野球部OB）ブラジル
 遠征全日本選抜選手団コーチとして出場
 第222号 佐藤 仁紀（スキー部OB）1996年ス
 キーオリエンテーリング世界選手権大会
 日本代表選手として出場
 第223号 航空部 第36回全日本学生グライダー
 競技選手権大会団体総合準優勝
 第224号 斎藤 岳志（航空部OB）第13回日本滑
 空選手権大会個人総合準優勝
 第225号 遠藤 秀春（自転車競技部）第37回全
 日本選手権自転車競技大会タンデムスプ
 リント優勝
 第52回全日本大学対抗自転車競技大会
 タンデムスプリント準優勝

- 第226号 匂坂 晋治（自転車競技部）第37回全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント優勝
- 第227号 玉淵 功（射撃）1996年全日本学生クレー射撃選手権大会スキート優勝
- 第228号 坂本 陽一（自転車競技部OB）1996年世界ジュニア選手権自転車競技大会派遣審判員として出場
- 第229号 白木 正彦（自転車競技部）第52回全日本大学対抗自転車競技大会4000メートル速度競争優秀
第37回全日本学生選手権自転車競技大会4000メートル速度競争準優勝
第51回国民体育大会4000メートル団体追い抜き競争準優勝・ケイリン準優勝
1996年日韓親善学生自転車競技交歓大会日本代表選手として出場
- 第230号 竹内 智彦（自転車競技部）第52回全日本大学対抗自転車競技大会スプリント優勝
第37回全日本学生選手権自転車競技大会ケイリン準優勝
1996年日韓親善学生自転車競技交歓大会日本代表選手として出場
- 第231号 庄司 浩（自転車競技部）第52回全日本大学対抗自転車競技大会タンデムスプリント準優勝
- 第232号 尾形 依子（ヨット部OG）1996年全日本470級女子大会優勝
- 第233号 藤井 修子（ヨット部OG）1996年全日本470級女子大会優勝
- 第234号 宇賀神 久美子（少林寺拳法部）第30回全日本学生大会女子段外の部最優秀賞
- 第235号 近藤 結（少林寺拳法部）第30回全日本学生大会女子段外の部最優秀賞
- 第236号 弓道部 第20回全日本学生弓道女子王座決定戦優勝
- 第237号 永井 睦美（弓道部）第20回全日本学生弓道女子王座決定戦最優秀選手
- 第238号 石塚 久恵（弓道部）第20回全日本学生弓道女子王座決定戦優秀選手
- 第239号 福田 克俊（軟式野球部OB）全日本大学選抜台湾親善大会日本代表（コーチ）として出場
- 第240号 北本 明生（軟式野球部）全日本大学選抜台湾親善大会日本代表選手として出場
- 第241号 鏡 一善（自転車競技部OB）1996年日韓親善学生自転車競技交歓大会日本代表（コーチ）として出場
- 第242号 鈴木 智（ヨット部）第8回日米学生親善ヨットレーススナイプ級準優勝
- 第243号 後藤 慶太（ヨット部）第8回日米学生親善ヨットレーススナイプ級準優勝
- 第244号 中野 信朗（スキー部OB）第18回ユニバシールド冬季競技大会日本代表（アルペンスキー競技コーチ）として出場
- 第245号 小藤 恭正（バスケットボール部OB）1972年4月から1993年3月まで21年間にわたり監督として部の指導育成のかたわら体育会監督会会長就任とともに本会副会長として会の組織活性化と発展に多大な貢献をなされた功績顕著である
- 第246号 仲嶋 一雄（ハンドボール部OB）1972年4月から1992年3月まで20年間にわたり監督として部の指導育成のかたわら本会常任幹事として会の運営に多大な貢献をなされた功績顕著である
- 第247号 竹内 智彦（自転車競技部）第38回全日本学生自転車競技選手権大会スプリント優勝
第58回全日本大学対抗自転車競技大会スプリント優勝
- 第248号 遠藤 秀春（自転車競技部）第38回全日本学生自転車競技選手権大会タンデムスプリント優勝
- 第249号 松尾 浩一（自転車競技部）第38回全日本学生自転車競技選手権大会タンデムスプリント優勝
- 第250号 高井 武志（自転車競技部）第38回全日本学生自転車競技選手権大会4000メー

- トル速度競争優勝・1000メートルタンデムトライアル準優勝
- 第251号 白木 正彦（自転車競技部）
第38回全日本学生自転車競技選手権大会1000メートルタンデムトライアル準優勝・ケイリン準優勝
第53回全日本大学対抗自転車競技大会ケイリン準優勝
- 第252号 準硬式野球部 第49回全日本大学準硬式野球選手権大会準優勝
- 第253号 玉淵 功（射撃）1997年全日本学生クレ射撃選手権大会スキート優勝
- 第254号 金澤 由香（スケート部）
アメリカ国際フィギュアスケート競技会日本代表選手として出場
1997年フィギュアスケート全日本ジュニア選手権大会優勝
世界ジュニア選手権大会日本代表選手として出場
第53回国民体育大会冬季大会スケート競技大会フィギュアスケート成年女子個人総合優勝
- 第255号 小林 由佳（弓道部）第21回女子東西学生弓道選抜対抗試合優秀選手賞
- 第256号 丹野 貴弘（軟式野球部）全日本大学選抜台湾親善軟式野球大会日本代表選手として出場
- 第257号 寺村 亮（軟式野球部）全日本大学選抜台湾親善軟式野球大会日本代表選手として出場
- 第258号 後藤 慶太（ヨット部）第9回日米学生親善ヨットレース日本代表選手として出場
- 第259号 今野 洋志（ヨット部）第9回日米学生親善ヨットレース日本代表選手として出場
- 第260号 前沢 智子（剣道部）第34回全日本基督教関係大学剣道大会女子個人戦優勝
- 第261号 ラクロス同好会 第8回全日本選手権エキシビジョンマッチ地区対抗統一王座決定戦女子の部優勝
- 第262号 中野 信朗（スキー部OB）第18回長野オリンピック冬季競技大会競技役員として出場
- 第263号 猪股 昭二（ヨット部OB）
1963年4月から1995年3月まで28年間にわたり監督として、その後総監督として部の指導育成に尽くされた功績誠に顕著である
- 第264号 金沢 由香（スケート部）
第70回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア女子優勝
第71回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア女子優勝
冬季ユニバシールド競技大会日本代表選手として出場
- 第265号 準硬式野球部 第50回全日本大学準硬式野球選手権大会準優勝
- 第266号 玉淵 功（射撃）平成10年度全日本学生対抗クレ射撃選手権スキートの部優勝
- 第267号 剣道部 第35回全日本基督教関係大学剣道大会優勝
- 第268号 田村 岳斗（スケート部）
フィギュアスケートグランプリ・スケートアメリカ日本代表選手として出場
フィギュアスケートグランプリ・NHK杯国際競技会日本代表選手として出場
第71回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア男子優勝
冬季ユニバシールド競技大会日本代表選手として出場
- 第269号 スケート部 第71回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア女子団体の部準優勝
- 第270号 中野 信朗（スキー部OB）冬季ユニバシールド競技大会役員として出場
- 第271号 菅野 昭弘（硬式野球部OB）
1993年1月、OB会長就任とともに本会副会長として1999年3月までの6カ年間にわたり会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第272号 増田 量吉（ボート部OB）
1974年4月から監督をつとめ、部の指

- 導育成の尽力のかたわら本会常任幹事として会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第273号 渡辺 淳浩 (スキー部OB) 第4回アジア冬季大会日本代表 (コーチ) として出場
- 第274号 高井 武志 (自転車競技部)
第40回全日本学生選手権自転車競技大会タンデム1Kmタイムトライアル優勝
- 第275号 若園 賢治 (自転車競技部)
第40回全日本学生選手権自転車競技大会タンデム1Kmタイムトライアル優勝
- 第276号 佐々木 一美 (自転車競技部)
第40回全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント準優勝
- 第277号 及川 有紀 (ヨット部) 第8回全日本学生女子ヨット選手権大会国際スナイプ級準優勝
- 第278号 五十嵐 直美 (ヨット部) 第8回全日本学生女子ヨット選手権大会国際スナイプ級準優勝
- 第279号 諏江 加奈子 (陸上競技部OG) 第83回日本陸上競技選手権大会女子走り幅跳び優勝
- 第280号 高野 千穂 (ライフル射撃部)
第12回全日本女子学生ライフル射撃選手権大会エアライフル立射40発競技優勝
- 第281号 ライフル射撃部 第12回全日本女子学生ライフル射撃選手権大会エアライフル団体優勝
- 第282号 準硬式野球部
第17回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会準優勝
第6回フレンドシップ準硬式野球大会日本代表として出場
- 第283号 金沢 由香 (スケート部)
フィギュアスケート4大陸選手権大会日本代表選手として出場
第72回全日本学生氷上競技選手権大会フィギュアスケート女子準優勝
第55回国民体育大会冬季大会フィギュア成年女子優勝
- 第284号 田村 岳斗 (スケート部)
フィギュアスケートグランプリ・NHK杯国際競技会日本代表選手として出場
第68回全日本フィギュアスケート選手権大会男子シングルス準優勝
第55回国民体育大会冬季大会フィギュア成年男子優勝
- 第285号 北川 政俊 (剣道部師範)
1984年4月、剣道部師範就任以来今日まで部の指導育成に尽力、全国大会において優秀な成績に導くなど部の隆盛発展に多大な貢献をなされた功績誠に顕著である
- 第286号 栗野 眞 (ライフル射撃部OB)
1983年4月、ライフル射撃部監督就任以来今日まで部の指導育成のかたわら、本会常任幹事として会の組織活性化と発展に多大な貢献をなされた功績誠に顕著である
- 第287号 自転車競技部 第39回全日本学生選手権チームロードレース大会準優勝
- 第288号 佐々木 桂二 (バスケットボール部コーチ)
第4回日本男子学生選抜バスケットボール大会東北学生選抜チーム監督として出場優勝
第55回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年女子宮城県チーム監督として出場準優勝
- 第289号 大井 亮介 (バスケットボール部)
- 第290号 渡辺 力 (バスケットボール部)
- 第291号 片平 知宏 (バスケットボール部)
- 第292号 鈴木 将夫 (バスケットボール部)
- 第293号 高橋 憲一 (バスケットボール部)
- 第294号 村岡 啓太 (バスケットボール部)
第4回日本男子学生選抜バスケットボール大会東北学生選抜チーム選手として出場優勝
- 第295号 若園 賢治 (自転車競技部)
- 第296号 鈴木 純一 (自転車競技部)

- 第41回全日本学生選手権自転車競技大会タンデム1000Mタイムトライアル準優勝
- 第297号 岡部 武 (自転車競技部)
- 第298号 北野 大地 (自転車競技部)
- 第299号 高橋 陽介 (自転車競技部)
- 第41回全日本学生選手権自転車競技大会オリンピックスプリント準優勝
- 第300号 鬼形 博之 (自転車競技部)
- 第56回全日本大学対抗選手権自転車競技大会40Kmポイントレース優勝
- 第301号 工藤 紀夫 (自転車競技部)
- 第56回全日本大学対抗選手権自転車競技大会4Km個人追い抜き競走準優勝
- 第302号 小笠原 杏子 (バスケットボール部)
- 第303号 加藤 千春 (バスケットボール部)
- 第55回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年女子宮城県チーム選手として出場準優勝
- 第304号 相澤 優子 (バスケットボール部)
- 第55回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年女子宮城県チーム選手として出場準優勝
- 第47回全日本学生バスケットボール選手権大会優秀選手
- 第305号 遊佐 真奈美 (ライフル射撃部) 第55回国民体育大会秋季大会ライフル競技会BRLS-40準優勝
- 第306号 佐藤 泰秀 (陸上競技部) 第36回全国身体障害者スポーツ大会槍投げ優勝
- 第307号 準硬式野球部 第18回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会準優勝
- 第308号 金澤 由香 (スケート部OG) 第56回国民体育大会冬季大会フィギュア競技会成年女子優勝
- 第309号 安田 大祐 (剣道部) 第2回全日本学生剣道オープン大会男子2段の部優勝
- 第310号 須田 夏美 (剣道部) 第2回全日本学生剣道オープン大会女子3段の部準優勝
- 第311号 高坂 雄介 (剣道部) 第48回全日本学生剣道東西対抗試合優秀選手
- 第312号 自転車競技部 第57回全日本大学対抗選手権自転車競技大会オリンピックスプリント準優勝
- 第313号 佐々木 桂二 (バスケットボール部コーチ) 第56回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年女子宮城県チーム監督として出場優勝
- 第314号 葛西 太勝 (バスケットボール部) 同上大会宮城県チームコーチとして出場優勝
- 第315号 宮本 美希 (バスケットボール部OG)
- 第316号 小笠原 杏子 (バスケットボール部OG) 同上大会宮城県チーム選手として出場優勝
- 第317号 相澤 優子 (バスケットボール部) 同上大会宮城県チーム選手として出場優勝
- 2001年ユニバシアード北京大会日本代表選手 (主将) として出場優秀選手
- 第48回全日本学生バスケットボール選手権大会優秀選手
- 第318号 加藤 千春 (バスケットボール部)
- 第319号 渡邊 佳奈 (バスケットボール部)
- 第320号 青山 景子 (バスケットボール部)
- 第56回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年女子宮城県チーム選手として出場優勝
- 第321号 村岡 啓太 (バスケットボール部)
- 第322号 加藤 真 (バスケットボール部)
- 第56回国民体育大会秋季大会バスケットボール競技会成年男子宮城県チーム選手として出場優勝
- 第323号 萬 尚圭 (馬術部)
- 第56回国民体育大会秋季大会馬術競技会成年男子セントジョーンズ賞典馬場馬術準優勝
- 第324号 小林 直樹 (準硬式野球部OB)
- 第56回国民体育大会秋季大会軟式野球競技会成年宮城選抜チーム監督として出場準優勝
- 第325号 高橋 司 (準硬式野球部OB) 同上大会成

- 年宮城選抜チーム選手として出場準優勝
- 第326号 佐藤 啓 (剣道部OB)
- 第327号 遠藤 稔正 (剣道部OB)
第56回国民体育大会秋季大会剣道競技会成年男子宮城選抜チーム選手として出場優勝
- 第328号 工藤 直純 (バレーボール部OB)
第56回国民体育大会秋季大会バレーボール競技会成年男子9人制宮城県チーム選手 (主将) として出場優勝
- 第329号 ライフル射撃部 第48回全日本学生ライフル射撃選手権大会ARS60準優勝
- 第330号 佐々木 園子 (剣道部) 第38回全日本基督教関係大学剣道大会女子個人優勝
- 第331号 金澤 由香 (スケート部OG)
第57回国民体育大会冬季大会フィギュア競技会成年女子宮城選抜チーム監督として出場優勝
- 第332号 牧野 真左彦 (自転車競技部) 第43回全日本学生選手権自転車競技大会スプリント準優勝
- 第333号 工藤 大輔 (自転車競技部) 同上大会ケイリン準優勝
- 第334号 牧野 真左彦・小倉 知幸・池 輝雅 (自転車競技部)
第58回全日本大学対抗選手権大会オリンピックスプリント準優勝
- 第335号 工藤 直純 (バレーボール部OB)
第57回国民体育大会秋季大会バレーボール競技会成年男子9人制宮城県チーム選手 (主将) として出場優勝
- 第336号 遊佐 真奈美 (ライフル射撃部)
第15回全日本女子学生ライフル射撃選手権大会10メートルエア・ライフル優勝
- 第337号 阿部 文智 (柔道部OB) 第51回全国青年大会柔道競技会個人戦無差別級優勝
- 第338号 石川 淳 (柔道部OB) 同上大会個人戦73Kg級準優勝
- 第339号 仙台TG倶楽部 (柔道部OB) 渡辺 佳昌・井上 裕介・及川 英則

- 同上大会宮城県代表チームとして団体戦出場準優勝
- 第340号 伊藤 哲夫 (卓球部OB)
卓球部OB会会長就任とともに本会副会長として1999年4月から2003年3月まで4カ年間にわたり、会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第341号 吉田 勝彦 (弓道部OB)
弓道部OB会会長のかたわら、本会常任幹事として多年にわたり会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第342号 嶋津 紀夫 (空手道部OB)
空手道部OB会会長のかたわら、本会参与として23年間の長きにわたり会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第343号 高橋 嘉男 (応援団OB)
本会発足時から関わり、特に1990年4月本会事務局長就任以来、今日までの長きにわたり会の組織活性化と発展に多大な貢献をされた功績誠に顕著である
- 第344号 高橋 富士男 (柔道部OB) 第5回世界マスターズ柔道選手権大会100Kg以下級優勝
- 第345号 大沼 哲 (レスリング部OB) 日韓少年レスリング親善試合日本代表選手団監督として出場
- 第346号 牧野 真左彦・小池 輝雅 (自転車競技部)
第58回全日本大学対抗選手権自転車競技大会チームスプリント準優勝
- 第347号 齋藤 健一郎 (軟式野球部) 第3回日米軟式野球国際大会日本代表選手として出場
- 第348号 工藤 直純 (バレーボール部OB)
第58回国民体育大会秋季大会バレーボール競技会成年男子9人制宮城県チーム選手 (主将) として出場優勝

- 第349号 仙台TG倶楽部（柔道部OB）渡辺 佳昌・井上 裕介・齋藤 渉
第52回全国青年大会柔道競技会宮城県代表チームとして団体戦に出場準優勝
- 第350号 大浪 顕正（バスケットボール部OB）
1985年から2003年まで18年間の長きにわたりバスケットボール部女子部監督として、部の指導育成に尽力された功績は誠に顕著である
- 第351号 青山 景子（バスケットボール部）
第27回日韓学生バスケットボール競技大会日本学生選抜選手団選手として出場
第27回日韓学生バスケットボール競技大会日本学生選抜選手団選手として出場
- 第352号 蛭名 洋平（自転車競技部）2004年全国日本学生選手権個人ロードレース大会個人ロード優勝
- 第353号 石崎 和寿（自転車競技部）
- 第354号 牧野 真左彦（自転車競技部）
第45回全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント優勝
第60回全日本大学対抗選手権自転車競技大会タンデムスプリント優勝・チームスプリント準優勝
- 第355号 和田 圭（自転車競技部）
第60回全日本大学対抗選手権自転車競技大会チームスプリント準優勝
- 第356号 茄子川 雅彦（ボート部）
- 第357号 会田 貴浩（ボート部）第31回全日本大学選手権大会男子ダブルスカル準優勝
- 第358号 遠藤 義安（柔道部OB）
アテネ・パラリンピック競技大会日本代表選手団柔道競技コーチとして出場
- 第359号 花淵 修平（サッカー部OB）
- 第360号 村田 純平（サッカー部OB）
- 第361号 千葉 理史（サッカー部）
- 第362号 小林 慶之（サッカー部）
- 第363号 佐藤 努（サッカー部）
- 第364号 飯川 裕太（サッカー部）
第59回国民体育大会夏季大会サッカー競技会成年男子の部宮城県チームとして出場優勝
- 第365号 齋藤 健一郎（軟式野球部）
- 第366号 星 恭平（軟式野球部）
第4回日米軟式野球国際大会全日本学生選抜チームの選手として出場
- 第367号 ライフル射撃部
第51回全日本学生ライフル射撃選手権大会50mライフル伏射60発競技団体優勝
- 第368号 軟式野球部 第25回東日本大学軟式野球選手権大会優勝
- 第369号 仙台TG倶楽部（柔道部OB）阿部 文智・渡邊 佳昌・及川 英則
第53回全国青年大会柔道競技会宮城県代表チームとして団体戦出場優勝
- 第370号 星 孝典（硬式野球部）
硬式野球部捕手として走攻守のバランスがとれた選手として活躍、日本野球機構新人選択会議（ドラフト会議）において本学学生現役としては初めて読売巨人軍の指名を受け入団
- 第371号 和田 圭（自転車競技部）
第74回全日本アマチュア自転車選手権大会トラックレーススプリント競技優勝
- 第372号 高橋 潤（自転車競技部）
第46回全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント 第2位
- 第373号 三浦 雄大（自転車競技部）
第46回全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント 第2位
- 第374号 体育会剣道部（剣道部）
第41回全日本基督教関係大学剣道大会団体優勝
- 第375号 山本 一貴（剣道部）
第4回全日本学生剣道オープン大会2段の部 優勝
- 第376号 永田 明仁（準硬式野球部）
平成17年全国日本大学準硬式野球連盟全日本メンバーに選拔され、中華人民共和

- 国での交流試合に派遣された。
- 第377号 岸 孝之 (硬式野球部)
第35回日米野球選手権大会および第3回世界大学選手権大会に日本代表選手として出場
- 第378号 玉渕 功 (射撃部 (工) OB)
ドーハ・アジア大会2006クレール射撃競技日本代表選手として出場
- 第379号 渡辺 栄男 (ワンダーフォーゲル部OB)
OB会創立から会長として40年以上に亘り、ワンダーフォーゲル部の指導とOB会の発展に貢献
- 第380号 相澤 優子 (バスケットボール部OG)
第82回全日本女子バスケットボール総合選手権大会でシャンソン化粧品チームの中心選手として準優勝に貢献
- 第381号 佐藤 啓 (剣道部OB)
フランス剣道連盟に招聘されナショナルチームを指導。第13回世界剣道選手権大会フランス代表チームのコーチ
- 第382号 栗野 眞 (ライフル射撃部OB)
平成18年度兵庫国体ライフル射撃競技宮城県監督として出場し女子の部優勝(皇后杯)
- 第383号 奥山 泰裕 (サッカー部)
第3回大学サッカー日韓定期戦に日本代表として出場
- 第384号 櫻井 正孝 (自転車競技部)
第47回全日本学生自転車競技大会タンデムスプリントにおいて優勝
- 第385号 三浦 雄大 (自転車競技部)
第47回全日本学生自転車競技大会タンデムスプリントにおいて優勝
- 第386号 青山 怜央 (ゴルフ部)
2006サンダーバードインターナショナルJr大会および日米大学対抗ゴルフ選手権大会の日本代表として出場
- 第387号 高橋 博子 (空手道部)
第49回全国空手道選手権大会都道府県対抗団体形の部において宮城県代表として準優勝に貢献
- 第388号 佐々木 桂二 (バスケットボール部)
第10回日本学生選抜バスケットボール大会の東北選抜チームの監督として準優勝に貢献
- 第389号 相馬 大地 (バスケットボール部男子)
第10回日本学生選抜バスケットボール大会の東北選抜チーム主力メンバーとして準優勝に貢献
- 第390号 柴田 寿浩 (バスケットボール部男子)
〃
- 第391号 一戸 佑也 (バスケットボール部男子)
〃
- 第392号 鹿内 琢介 (バスケットボール部男子)
〃
- 第393号 相澤 利彦 (バスケットボール部男子)
〃
- 第394号 石山 怜 (バスケットボール部男子)
〃
- 第395号 須田 祥任 (バスケットボール部男子)
〃
- 第396号 ライフル射撃部
平成18年度オールミッション大学定期戦において団体総合優勝
- 第397号 準硬式野球部
第59回全日本準硬式野球選手権大会準優勝
- 第398号 ライフル射撃部
平成19年度オールミッション大学定期戦団体総合優勝
- 第399号 軟式野球部
第28回東日本軟式野球選手権大会優勝
- 第400号 松原 英男 (空手道部OB)
第7回全国熟練者空手道選手権大会組手の部優勝
- 第401号 佐藤 正 (自転車競技部OB)
自転車競技部の創部に携わり、以来コーチ・監督として長年にわたり部の発展に貢献
- 第402号 相澤 優子 (バスケットボール部OG・

- シャンソン化粧品)
第83回天皇杯第74回皇后杯全日本総合
バスケットボール選手権大会ベスト5選
手賞
- 第403号 櫻井 正孝 (自転車競技部) 第62回国
体成年自転車ケイリン競技優勝
第48回全日本学生自転車競技大会タン
デムスプリント優勝
- 第404号 三浦 雄大 (自転車競技部)
第48回全日本学生自転車競技大会タン
デムスプリント優勝
- 第405号 佐々木 美歩 (陸上競技部)
天皇賜杯第76回日本学生陸上競技対抗
選手権大会走り高跳び第2位
- 第406号 高橋 博子 (空手道部)
内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会一
般女子形の部4位
- 第407号 小松 喬 (軟式野球部)
全日本大学軟式野球連盟30周年記念日
華親善大学軟式野球国際大会日本代表
- 第408号 石川 達也 (軟式野球部)
全日本大学軟式野球連盟30周年記念日
華親善大学軟式野球国際大会日本代表
- 第409号 奥山 泰裕 (サッカー部)
サッカーJリーグ ジェフユナイテッド
市原・千葉入団
- 第410号 準硬式野球部
清瀬杯第40回全日本大学選抜準硬式野
球大会 優勝
- 第411号 岸 孝之 (硬式野球部OB)
2008年度日本プロ野球日本シリーズに
おいてMVPを受賞。埼玉西武ライオン
ズの日本一に貢献。
- 第412号 佐々木 美歩
第92回日本陸上選手権大会走高跳第3位
第77回天皇賜杯日本陸上競技対校選手
権大会走高跳 準優勝
- 第413号 櫻井 正孝
第63回国体成年自転車ケイリン競技
優勝
- 第414号 先崎 まこ
第21回全日本学生フィールドアーチェ
リー選手権大会 準優勝
- 第415号 高橋 富士男 (柔道部OB)
平成19年度全日本学生柔道連盟海外研
修団 (ドイツ・デンマーク) 団長
第10回世界マスターズ柔道大会・M7
(60~64歳) 優勝
第5回日本マスターズ国際大会・M7無
差別級 優勝
- 第416号 渡辺 久義 (柔道部OB)
第5回日本マスターズ国際柔道大会・M
7 (60~64歳) 90kg以下級 優勝
- 第417号 阿部 文智 (柔道部OB)
第5回日本マスターズ国際柔道大会・M
1 (30~34歳) 100kg以下級 優勝
- 第418号 安藤 明仁 (柔道部OB)
第5回日本マスターズ国際柔道大会・M
1 (30~34歳) 66kg以下級 準優勝
- 第419号 櫻井 正孝 (自転車競技部)
第64回国体成年自転車ケイリン協日優勝
- 第420号 石川 達也 (軟式野球部)
第5回日台大学軟式野球親善国際大会日
本代表
- 第421号 大沼 誠尚 (少林寺拳法部)
第43回小林寺拳法全日本学生大会組演
武、段外の部第2位 (優秀賞)
- 第422号 疋田 元 (少林寺拳法部)
第43回小林寺拳法全日本学生大会組演
武、段外の部第2位 (優秀賞)
- 第423号 高橋 順一 (ヨット部OB)
セーリング界の発展に貢献し、平成21
年春の叙勲にて旭日双光章授賞
- 第424号 菊地 正 (バドミントンOB)
第36回全日本シニアバドミントン選手
権大会60歳以上男子シングルス第2位
- 第425号 高坂 雄介 (剣道部OB)
第57回全日本剣道選手権大会第3位
- 第426号 田畑 大地 (柔道部OB)
第16回環太平洋シニア柔道選手権大会

- 66kg級第3位
- 第427号 剣道部
第46回全日本基督教関係大学剣道優勝大会・団体優勝
- 第428号 牧野 翔太 (自転車競技部)
第51回全日本学生選手権大会自転車競技・ケイリン第2位
- 第429号 山田 貴洋 (準硬式野球部)
第62回全日本準硬式野球選手権大会において活躍、全日本選抜メンバー(投手)に選出
- 第430号 佐々木 桂二 (バスケットボール部)
第14回全日本男子学生選抜バスケットボール大会・準優勝
東北選抜チーム監督
- 第431号 中里 大 (バスケットボール部)
第14回全日本男子学生選抜バスケットボール大会・準優勝
東北選抜チーム選手として活躍
- 第432号 鈴木 航 (バスケットボール部)
〃
- 第433号 小川 大智 (バスケットボール部)
〃
- 第434号 佐藤 光 (バスケットボール部)
〃
- 第435号 加藤 聖基 (バスケットボール部)
〃
- 第436号 遠藤 悠亮 (バスケットボール部)
〃
- 第437号 菅野 翔太 (バスケットボール部)
〃
- 第438号 伊保内 謙太 (バスケットボール部)
〃
- 第439号 田端 秀規 (サッカー部OB)
第65回国民体育大会サッカー競技成年男子・宮城県チーム(ソニー仙台FC)優勝・監督
- 第440号 花瀨 修平 (サッカー部OB)
第65回国民体育大会サッカー競技成年男子・宮城県チーム(ソニー仙台FC)

- 優勝・選手
- 第441号 村田 純平 (サッカー部OB)
〃
- 第442号 門間 匡史 (サッカー部OB)
〃
- 第443号 三浦 直貴 (サッカー部)
〃
- 第444号 曾根 孝悦 (剣道部OB)
多年にわたり監督として本学剣道部員を指導し、かつ本学剣道部史上初の剣道八段に昇段
- 第445号 根本 仁志 (合気道部OB)
多年にわたり本学合気道部員を指導し、かつ本学合気道部史上初の合気道七段に昇段
- 第446号 弓道部女子団体 [杉澤 美穂、佐藤 捺月、長谷川 愛、佐藤 愛結美、松岡 渚] (弓道部)
第59回全日本学生弓道選手権大会女子の部 第2位
- 第447号 齋藤 禮治 (山岳部OB)
TGヒュッテ「栄光」メンテナンス委員長として15年に亘り保守、保全に多大の貢献
- 第448号 栗原 則充 (柔道部OB)
第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(40~44歳)無差別級の部 第2位
- 第449号 高宮 和弘 (柔道部OB)
第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(40~44歳)100kg以下級の部 第3位
- 第450号 石森 辰浩 (柔道部OB)
第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(30~34歳)81kg以下級の部 優勝
第8回日本マスターズ柔道大会 団体の部 優勝
- 第451号 仙台艇友会 仙台艇友会 (OB会名称)一発会として大会出場
鈴木 和雄 (ボート部OB会 [昭和45年経経卒])
2012年 全日本マスターズボート選手

- 権大会（埼玉県 戸田ポートコース）
鈴木 俊（ボート部OB会 [昭和45年経経卒]）
ナックルフォア（60歳～65歳）優勝
千田 宏（ボート部OB会 [昭和45年経経卒]）
成沢 礼義（ボート部OB会 [昭和45年経経卒]）
2012年 河北レガッタボート選手権大会（宮城県 長沼ポートコース）
伊東 俊一（ボート部OB会 [昭和45年経経卒]）
ナックルフォア（40歳以上壮年の部）優勝
杉船 敏彦（ボート部OB会 [昭和45年経経卒]）
- 第452号 加藤 祐太（ラグビー部OB（セコムラグッツ）[平成20年経経卒]）
2012年男子7人制ラグビー日本代表
ワールドカップ・セブンズ2013 アジア地区予選 兼 HSBCアジアセブンズシリーズ優勝
- 第453号 伊藤 祐介（硬式野球部 [経経4年]）
仙台六大学秋季リーグ戦において13季ぶり本学優勝に貢献、また、福岡ソフトバンク球団からドラフト2位指名。
- 第454号 大山 宏仁（自転車競技部 [営営2年]）
第53回全日本学生選手権トラック自転車競技会ケイリン 優勝
- 第455号 大田口 凌（自転車競技部 [経共2年]）
全日本学生RCS箱根ターンバイク・ヒルクライム・ラウンド 準優勝
- 第456号 門脇 翼（自転車競技部 [経経1年]）
文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権自転車競技会1,000メートルタイムトライアル 準優勝
- 第457号 内海 将太（軟式野球部 [法法3年]）
第7回日台大学軟式野球国際親善大会（2012.12台湾）日本代表
- 第458号 千葉 周平（少林寺拳法部 [法法1年]）、
成田 樹（少林寺拳法部 [経経1年]）
2012年少林寺拳法全国大会 一般男子二段の部 最優秀賞（優勝）
- 第459号 大田口 凌（自転車競技部 [経済学部3年]）
2013ツールド・シンカラ大会に日本代表選手として出場
- 第460号 湊田 瑞歩（軟式野球部 [経営学部4年]）
第8回日台大学軟式野球国際親善試合に日本代表選手として出場
- 第461号 高橋 朋史（剣道部 [経済学部1年]）
第8回全日本学生剣道オープン大会 男子2段の部第3位
- 第462号 仙台艇友会（ボート部OB会）鈴木 和雄、鈴木 俊、千田 宏、成沢 礼義、伊東 俊一、杉船 敏彦（ボート部OB [全員昭和45年経経卒]）
仙台艇友会・一発会として出場。第6回全日本マスターズボート選手権大会 ナックルフォア（60～65歳の部）優勝
第22回河北レガッタボート選手権大会 ナックルフォア（40歳以上）優勝
- 第463号 高橋 富士男（柔道部OB [昭和45年法卒]）
第5回IJFベテランズ国際柔道大会100kg以下級（M8）優勝
第2回アジアグランドマスターズ柔道大会100kg以下級（M8）優勝
- 第464号 石森 辰浩（柔道部OB [平成15年経経卒]）
第2回アジアグランドマスターズ柔道大会81kg以下級（M1）準優勝
- 第465号 木名瀬 敏正（体育会常任幹事会OB [昭和29年文経卒]）
本学体育会の設立に苦心努力され、初代幹事長として3期にわたり各部の向上と団結に尽力された。また、青山学院大学体育会常任幹事会設立にも尽力され、本学体育会の発展に多大な貢献をなされた功績誠に顕著である
- 第466号 仙台艇友会（ボート部OB会）鈴木 和雄、鈴木 俊、千田 宏、成沢 礼義、伊東 俊一、杉船 敏彦（ボート部OB

- [全員昭和45年経卒])
 仙台艇友会・一発会として出場。第7回全日本マスターズボート選手権大会 ナックルフォア (65~69歳の部) 優勝
- 第467号 石ヶ守 遼 (バスケットボール部 [法学部2年])
 佛光盃国際招待バスケットボール大会へ日本代表として出場。得点王
- 第468号 大谷 豪 (バスケットボール部 [経済学部4年])
 佛光盃国際招待バスケットボール大会へ日本代表として出場。アシスト王
- 第469号 池田 皓 (ヨット部OB [昭和43年工卒])、阿部 義男 (ヨット部OB [昭和43年経卒])、金矢 泰弘 (ヨット部OB [昭和45年工卒])
 第24回全日本A級ディンギー選手権 A級FRPクラス優勝
- 第470号 飯山 雄介 (弓道部OB [平成16年工卒])
 第2回世界弓道大会 団体優勝
- 第471号 遠藤 明日香 (ボウリング部 [経済学部3年])
 第47回全日本新人ボウリング選手権大会 成年の部女子優勝
- 第472号 成田 樹 (少林寺拳法部 [経済学部3年])、千葉 周平 (少林寺拳法部 [法学部3年])
 第48回少林寺拳法全日本学生大会 男子二段以上の部最優秀賞 (第1位)・内閣総理大臣賞
- 第473号 瓜生 瞳 (少林寺拳法部 [法学部3年])、百井 香穂 (少林寺拳法部 [教養学部1年])
 第48回少林寺拳法全日本学生大会 女子初段の部第3位
- 第474号 鈴木 健太 (剣道部 [法学部1年])
 第9回全日本学生剣道オープン大会 参段以上の部第3位
- 第475号 笠原 裕二郎 (スケート部OB)
 第27回ユニバーシアード冬季競技大会 日本代表 (アイスホッケー女子 監督) として出場
- 第476号 柔道部
 第61回全日本基督教関係大学柔道大会 優勝
- 第477号 伊藤 哲夫 (卓球部OB)
 第28回全国ラージボール卓球大会 男子シングルス80A (ハ) 優勝
- 第478号 坂本 旬平・成田 祐佳 (少林寺拳法部)
 第49回少林寺拳法全日本学生大会 男女白緑の部 第2位
- 第479号 田村 誓也 (少林寺拳法部)
 第49回少林寺拳法全日本学生大会 単独段外の部 第3位
- 第480号 荒井 絵利加・早坂 優来 (少林寺拳法部)
 第49回少林寺拳法全日本学生大会 女子茶帯の部 第3位
- 第481号 川崎 綾香・庄司 美里 (少林寺拳法部)
 第49回少林寺拳法全日本学生大会 女子初段の部 第3位
- 第482号 大友 富雄 (ゴルフ部OB)
 2015年度 (第37回) 日本シニアゴルフ選手権 第2位
- 第483号 千葉 周平・成田 樹 (少林寺拳法部)
 2015年少林寺拳法全国大会 in KYOTO 大学男子の部 最優秀賞 (優勝)・京都府知事賞
- 第484号 本田 圭佑 (硬式野球部)
 硬式野球部の投手として仙台六大学で通算15勝を挙げ、3年秋に敢闘賞を受賞。一般社団法人 日本野球構主催の新人選手選択会議 (プロ野球ドラフト会議) で埼玉西武ライオンズの指名を受け入団
- 第485号 ボウリング部
 第53回全日本大学ボウリング選手権大会 女子 第3位
- 第486号 弓道部
 第39回全日本学生弓道女子王座決定戦 団体優勝
 優勝決定戦での的中数 (36射35中) は

- 日本記録
- 第487号 高木 千緩 (弓道部)
第39回全日本学生弓道女子王座決定戦
最優秀選手賞
- 第488号 小林 愛美 (弓道部)
第39回全日本学生弓道女子王座決定戦
優秀選手賞
- 第489号 猿田 匠 (自転車競技部)
世界大学自転車競技選手権2016出場
- 第490号 後藤 大河 (レスリング部)
JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会 男子ジュニアの部
フリースタイル 50kg級 第3位
- 第491号 三浦 文華・高木 千緩・小林 愛美・三浦 由貴 (弓道部)
第28回全国大学弓道選抜大会 女子の部 優勝
- 第492号 遠藤 義安 (柔道部OB)
リオ2016パラリンピック競技大会に柔道男子監督として参加
- 第493号 ライフル射撃部
平成28年度オールミッション大学定期戦 総合優勝
- 第494号 成田 祐佳 (少林寺拳法部)
2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた女子単演級拳士の部 優秀賞 (第2位)
第50回記念 少林寺拳法全日本学生大会 単独段外の部 第3位
- 第495号 田村 誓也・大竹 芹 (少林寺拳法部)
第50回記念 少林寺拳法全日本学生大会 男女初段の部 優秀賞 (第2位)
- 第496号 大友 雄太 (柔道部OB)
平成28年度第65回全国青年大会 個人戦 無差別級 第3位
- 第497号 大友 富雄 (ゴルフ部OB)
2016年度 (第38回) 日本シニアゴルフ選手権競技 第2位
APGCシニアアマチュアゴルフ選手権に日本代表選手として出場
- 第498号 納谷 瑞樹 (剣道部)
第52回全日本基督教関係大学剣道大会 個人戦 女子の部 準優勝
- 第499号 菊池 哲 (バスケットボール部 昭和34文経卒)
前OB会長。長年OB会会長を務められ、また、宮城県バスケットボール協会の会長も歴任された。その功績が認められ、平成29年度公益財団法人日本バスケットボール協会功労者表彰につながった。
- 第500号 後藤 大河 (レスリング部 経済学部2年)
JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会 男子ジュニアの部 フリースタイル 50kg級 第3位
- 第501号 伊藤 哲夫 (卓球部 昭和32文経卒)
第30回全国ラージボール卓球大会 男子ダブルス160 第3位
- 第502号 大泉 祐 (レスリング部 平成9経済卒)
全日本社会人レスリング選手権大会 マスターズB フリースタイル 65kg級 優勝
- 第503号 成田 祐佳 (少林寺拳法部 法学部3年)
2017少林寺拳法世界大会 in カリフォルニア、USA 女子単演級拳士の部 最優秀賞 (第1位)
- 第504号 鈴木 遼太郎 (硬式野球部 教養学部4年)
投手として仙台六大学野球リーグにて大学2年時に最優秀新人賞、3・4年時には敢闘賞を受賞。
一般社団法人日本野球機構主催の新人選手選択会議 (プロ野球ドラフト会議) で北海道日本ハムファイターズの指名を受け入団
- 第505号 剣道部
第53回全日本基督教関係大学剣道大会 女子団体戦 優勝
- 第506号 及川 大輝 (少林寺拳法部 文学部2年)
第51回少林寺拳法全日本学生大会 段外単演武の部 最優秀賞 (第1位)

- 第507号 橘川 竜 小島 諒也 (少林寺拳法部法学部1年 文学部1年)
第51回少林寺拳法全日本学生大会 男子初段の部 優秀賞 (第3位)
- 第508号 橋元 秀悟 (軟式野球部 法学部3年)
全日本大学軟式野球国際親善大会 (GUAM) に、日本代表選手として出場
- 第509号 菅野 紀夫 (レスリング部OB)
前体育会レスリング部OB会長。東北レスリング協会会長、宮城県レスリング協会会長としてレスリング競技の普及発展等スポーツ振興の功績が認められ、平成30年秋の叙勲にて旭日双光章受章。
- 第510号 鈴木 和雄、鈴木 俊、千田 宏、成沢 礼義、伊東 俊一、杉船 敏彦 (ボート部OB)
第11回全日本マスターズボート選手権大会 ナックルフォア (70~74歳の部) 優勝
- 第511号 大泉 祐 (レスリング部OB)
2018年全日本社会人レスリング選手権大会 マスターズB (41歳以上50歳以下) フリースタイル65kg級 優勝
- 第512号 鈴木 隼輔 (自転車競技部)
第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 ケイリン 第2位
- 第513号 田村 誓也 (少林寺拳法部OB)
2018年少林寺拳法全国大会 in ぐんま 一般男子初段・二段の部 最優秀賞
- 第514号 三膳 未咲貴 (少林寺拳法部) 千葉 周平 (少林寺拳法部OB)
2018年少林寺拳法全国大会 in ぐんま 女子護身技法の部 優秀賞
- 第515号 加藤 凌我 (軟式野球部)
第21回全日本大学軟式野球国際親善大会 (GUAM) に、全日本代表として選出
- 第516号 鈴木 秀幸 (剣道部)
第13回全日本学生剣道オープン大会 男子個人三段以上の部 優勝 (2018.12.15-16 石川県)
- 第517号 柔道部
第65回全日本基督教関係大学柔道大会 男子団体戦一部リーグ 優勝 (2019.5.12 東京都)
- 第518号 遠藤 明日香 (ボウリング部OG)
経済産業大臣杯第45回全日本実業団産業別ボウリング選手権大会 決勝大会 優勝 (2019.5.31-6.2 大阪府)
- 第519号 風間 翔真 (自転車競技部)
第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子4kmインディヴィジュアルパーシュート 第3位 (2019.8.24-26 長野県)
- 第520号 高嶋 真帆 (剣道部)
第55回全日本基督教関係大学剣道大会 女子個人の部 第3位 (2019.10.6 東京都)
- 第521号 剣道部 (女子)
第55回全日本基督教関係大学剣道大会 女子団体の部 準優勝 (2019.10.6 東京都)
- 第522号 剣道部 (男子)
第55回全日本基督教関係大学剣道大会 男子団体の部 第3位 (2019.10.6 東京都)
- 第523号 菅野 志帆 (バスケットボール部)
MABA International Basketball Invitation 個人賞 (アシスト賞) (2019.10.22-27 マレーシア)
- 第524号 バスケットボール部 (女子)
MABA International Basketball Invitation 第3位 (2019.10.22-27 マレーシア)
- 第525号 石山 仁 (バスケットボール部OB)
バスケットボール部創部70周年 (2018) をもってOB会の一線から退くも、1975年から2017年の42年間、長年にわたり男子部のコーチ、監督として尽力された。また、TGスポーツOB連合会で長年役員を務めた。

- 第526号 阿部 奈々美 (スケート部OG)
女子シングルの選手として全日本選手権シニアに2度出場。引退後は仙台を拠点にコーチ・振付師として活動し、荒川静香、田村岳斗、高橋大輔らの振付を担当。コーチとして羽生結弦を指導し、2010年世界ジュニア選手権優勝や2012年世界選手権銅メダルに導いた。
- 第527号 大泉 祐 (レスリング部OB)
2020年全日本社会人レスリング選手権大会 マスターズB (41歳以上45歳以下) フリースタイル70kg級 準優 (2020.1.19 東京都)
- 第528号 遠藤 義安 (柔道部OB)
東京2020パラリンピック競技大会に柔道男子監督として参加 (2021.8.27-29 東京都)
- 第529号 遠藤 明日香 (ボウリング部OG)
第39回全日本実業団都市対抗ボウリング選手権大会 4人チーム戦 準優勝 (2022.1.28-30 神奈川県)
第77回国民体育大会 成年女子団体戦 (2人) 第3位 (2022.10.6-10 栃木県)
第48回全日本実業団産業別ボウリング選手権大会 第3位 (2022.5.27-29 三重県)
- 第530号 芝田 壮、高橋 飛翔 (少林寺拳法部)
第56回 少林寺拳法全日本学生大会 男子初段の部 第3位 (2022.11.6 東京都)
- 第531号 剣道部 (女子)
第56回全日本基督教関係大学剣道大会 女子団体の部 第3位 (2022.12.4 宮城県)
- 第532号 丸山 祐人 (軟式野球部)
第25回全日本大学軟式野球国際親善大会 日本代表選出 (2022.12.9-11 台湾)



TGスポーツOB連合会
<http://www.tgaa.jp/>

企画 TGスポーツOB連合会
作成 株式会社東北プリント

(躍動・本間良一元会長書)